



VALQUA Group

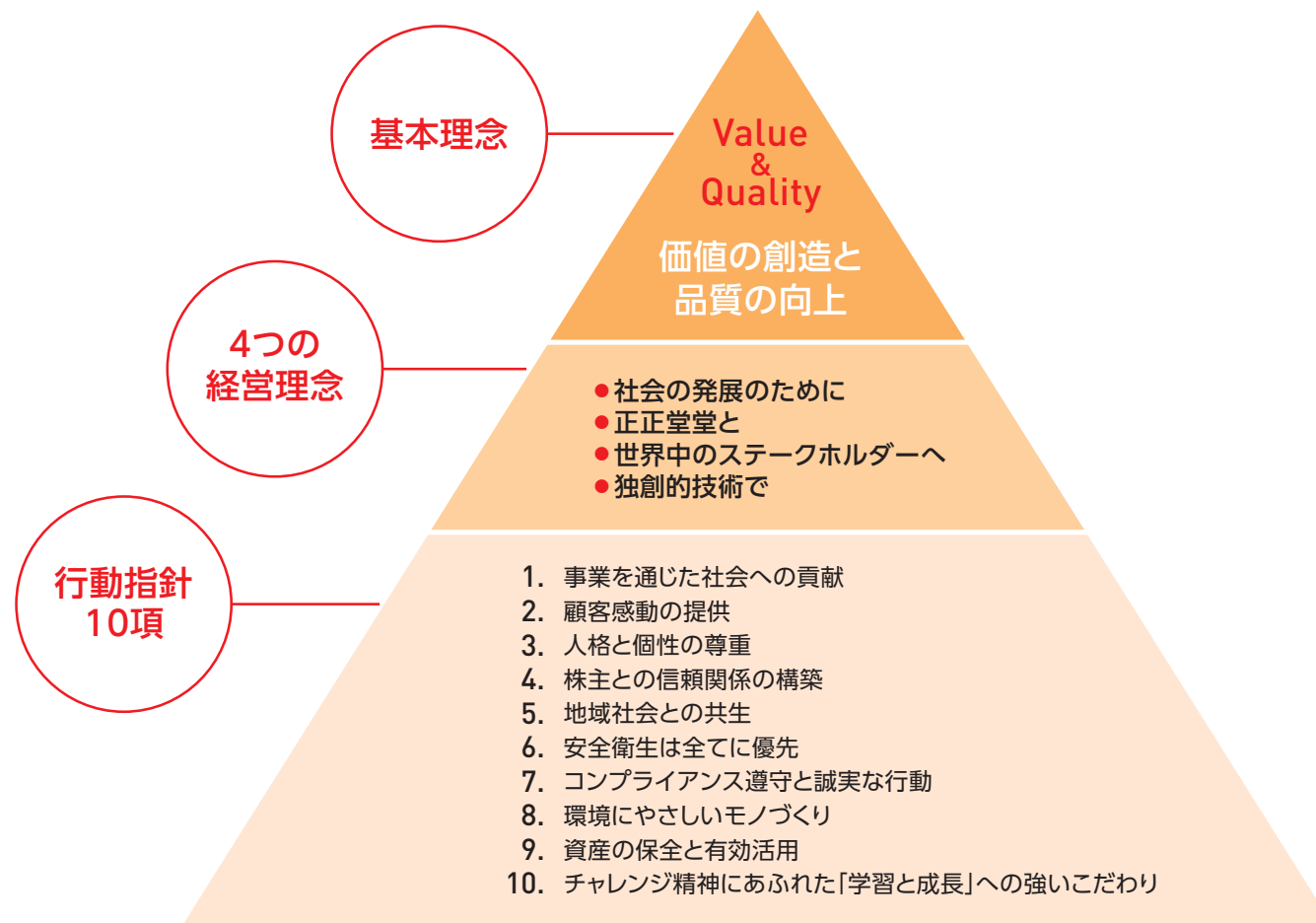
# Sustainability Report

# 2022



# THE VALQUA WAY

バルカーグループの企業理念「THE VALQUA WAY」は、社名の由来であり基本理念でもある「Value & Quality」、それをさらに従業員が理解し実践しやすくした「4つの経営理念」、そして「行動指針10項」で構成されています。この深い理解と実践こそが、当社グループのサステナビリティの根幹となっています。バルカーグループは、これからも、人類の豊かさや地球環境に貢献するために「価値の創造と品質の向上」を追求し続けてまいります。



企業理念	02
目次・編集方針	03
トップメッセージ	04
バルカーと社会との関わり	06
SDGsの考え方および方針	08
サステナビリティ マネジメント	09
サステナビリティ重要課題	10

<b>特集1 ビジヨナリー経営</b>	12
「THE VALQUA WAY」100周年を超えて 健全で持続的な成長のための ビジヨナリー経営のさらなる強化	

<b>特集2 DX推進</b>	14
CDOメッセージ デジタルの力で 競争環境を変えていく	

<b>特集3 人材育成</b>	16
バルカーベトナムとともに成長する 女性管理職の挑戦	

<b>コーポレート・ガバナンス</b>	
01. 企業理念の浸透	18
02. コーポレート・ガバナンスの強化	19
03. グループグローバルな活動の推進	20
04. ステークホルダーとの対話	20

<b>コンプライアンス</b>	
05. 汚職・贈収賄の防止	21
06. 法令等の遵守	22
07. 環境関連法令等の遵守	23

<b>環境</b>	
08. 環境負荷物質の漏出防止と低減	24
09. 事業上の環境負荷物質の低減	25

<b>安全衛生</b>	
10. 労働安全衛生	27

<b>サプライチェーンマネジメント</b>	
11. サステナブル調達	28

<b>人材・人権</b>	
12. 人材の多様性確保	29
13. 人権の尊重	30
14. 人材育成	30

<b>顧客満足</b>	
15. 品質の向上と顧客の安全・安心	31

<b>コミュニティ</b>	
16. スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生	32

会社概要・拠点図	34
----------	----

## 編集方針

本レポートは、バルカーグループの持続的成長に向けた基本的な考えと、サステナビリティに関する取り組みをステークホルダーの皆さまにお伝えするため、年1回発行しています。一部データはWebサイトのみで開示し、それぞれ掲載予定先となるURLを記載しています。また、参考ガイドラインは、GRIスタンダード、ISO26000、国連グローバル・コンパクト、SDGs（持続可能な開発目標）、RBA行動規範などです。

## 報告対象期間

2021年4月1日～2022年3月31日  
報告の一部に上記対象期間前後の内容を含みます。なお、体制図、方針、基準などは、2022年6月現在のものです。



## 対象範囲

株式会社バルカーおよびその連結子会社18社  
（障がい者雇用率、女性管理職比率はバルカー単体の数値としています）

## 発行時期

2022年6月発行（前回発行2021年6月）

## 報告媒体

冊子・PDF版	重点的なサステナビリティに関する取り組みを年次レポートとしてまとめています。 <a href="https://www.valqua.co.jp/social/report/">https://www.valqua.co.jp/social/report/</a>	
Web版	Webサイトには最新情報・追加情報を網羅的に掲載し、随時更新しています。 <a href="https://www.valqua.co.jp/social/">https://www.valqua.co.jp/social/</a>	



# バルカーの強みを最大限発揮し、「人類の豊かさ と地球環境」に貢献していきます

## 未来を見据えた価値を創造するため「発想の転換」と「大胆なCX」にチャレンジ

ここ数年の新型コロナウイルスの感染拡大、さらに今年に入ってから、世界各地で起こる領有権争い、強制労働や児童労働といった人権侵害、経済安全保障上の問題等々、あらゆるリスクが表面化し、これまで当たり前だと思っていた日常や常識が一変しました。

その一方で、地球環境にとって喫緊の課題である気候変動についても、気候サミットをはじめ、G7、COP26で議論されるなど、大きく加速しました。

バルカーグループは、2027年の創業100周年のありたい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を掲げ、人類の豊かさや地球環境に貢献することを決意し、「環境・社会・企業統治」への取り組みを強化しています。

環境面では、水素エネルギー実用化に向けた製品や、シリコンウエハーのリサイクル事業などの環境配慮品の提供に加え、再生可能エネルギー導入の取り組みも続けており、国内のみならず海外の新工場にも太陽光発電設備を設置するなど、環境に配慮したモノづくりを行っています。

また、気候変動への対応を重要なテーマと捉え、2021年5月「気候関連財務情報開示タスクフォース」(以下TCFD)の提言への賛同を表明するとともに、賛同企業や金融機関が議論する場である「TCFDコンソーシアム」に加入いたしました。今後、TCFDの提言に沿った活動に取り組むとともに、環境配慮製品の積極的な提供や、パートナー企業との環境配慮型商品・サービスの連携などを通じて、地球環境に貢献してまいります。

社会・企業統治面では、2022年4月より、外部環境の変化に即座に対応するためにスタートさせた新たな中期経営計画“New Frontier 2023”(NF2023)で、【激変する社会情勢の中、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと顧客の信頼に応え、H&S<sup>※1</sup>の両輪で新たな価値を創造し続ける企業を目指そう】のスローガンを掲げ、H&Sを基軸にした「既存事業領域の拡大」と「新規事業領域の獲得」での成長を目指し、これらの取り組みを加速させています。

このデジタル時代にDX<sup>※2</sup>のみならず大胆なCX<sup>※3</sup>の推進を強化し、バルカーの高度な技術による製品を新たな事業領域獲得につなげる発想への転換を図り、また、裾野が広いバルカーの強みを生かし、革新的な技術・商品・サービス・ノウハウを持った企業との連携を通じて、さまざまな分野の社会課題の解決に向け、取り組んでいます。

また、これらの取り組みを着実に推進し、当社グループの持続的成長を図るためには、経営基盤の強化がなにより重要であると考え、安全・安心の確保、コンプライアンス・BCP体制の構築と強化、人材育成のさらなる推進、新たな事業分野への展開などの観点も踏まえたりスクマネジメントに取り組んでいます。

※1 H&S:付加価値の高いH(ハード=製品)に、顧客視点に立ったS(サービス)を付加し、顧客価値の最大化に向けたソリューションを提供する。  
 ※2 DX:デジタルトランスフォーメーションの略。  
 ※3 CX:コーポレートトランスフォーメーションの略。

## 「CSR」から「サステナビリティ」へ

2022年4月、バルカーは、東京証券取引所の市場区分再編にともなう「プライム市場」への移行に先立ち、2021年6月

「コーポレートガバナンス・コード」の改訂に対応するため、ガバナンスの一層の充実やサステナビリティ活動の強化を図っています。これにより、当社グループの従来の「CSR」を「サステナビリティ」として、【「THE VALQUA WAY」のもと、健全で持続的な成長と持続可能な社会を実現すること】と捉え直し、推進体制についても「バルカーグループCSR推進委員会」から「バルカーグループサステナビリティ委員会」へと名称変更を行うとともに、体制を強化しました。

また、CSR重要課題についても、経営戦略、事業計画との関連性をより重視した「サステナビリティ重要課題」とするため、現在見直しを進めています。

## 多様な人材の能力を最大限に発揮するための人材育成の強化

バルカーグループは、「人材」が最も重要な財産であると考え、「バルカーグループ人権基本方針」を制定しています。また、新規事業領域への展開に向けて、人材育成を強化し、CEO塾、海外幹部研修、早期選抜研修などを通し、近い将来、拠点経営を担うコア人材の開発を進めています。さらに、従業員のマインドを向上させる施策として、グループ全従業員のエンゲージメント向上を目標とした取り組みや、サステナビリティ活動の一環として当社グループが振興支援しているボールルームダンス大会のスタッフを従業員が経験することで、直接顧客に接することのない部署においても、顧客視点の学びの機会を持つことができている。

このように、あらゆる角度から人材の育成に力を入れ、自律型従業員を育成することで、当社グループが目指す、人類の豊かさや地球環境に貢献するために「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」の実現につながるものと期待しています。

バルカーグループのこうした事業活動の根幹にあるのが、企業理念の「THE VALQUA WAY」です。バルカーグループは「THE VALQUA WAY」のもと、さらなる価値の創造と品質の向上を追求し続け、健全で持続的な成長と、持続可能な社会の実現のために貢献してまいります。

今後ともバルカーグループへの変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2022年6月

バルカーグループ代表  
株式会社バルカー 代表取締役会長CEO

龍澤利一

## 中期経営計画(NF2023)の基本方針(New Frontier 2023)

激変する世界情勢の中、「THE VALQUA WAY」のもと顧客の信頼に応え、H&Sの両輪で新たな価値を創造し続ける企業を目指そう

1. 大胆なM&Aや業務提携の加速による新素材・新市場・新事業への参入
2. 地政学リスクの増大に対応したサプライチェーン改革の断行
3. 継続的な顧客価値を生み出すAI/ITソリューションの事業確立
4. 新たなビジネス領域へ展開するための研究開発と人材育成の加速
5. 既存事業をより強化するための設備投資の増強と販売チャネルの拡充



# バルカーと社会との関わり

私たちの“製品&サービス”が  
さまざまなところで活躍しています。

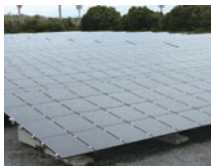
## A 宇宙ロケット・人工衛星



### メタル中空リング

宇宙空間においても漏れを防ぐほどの高機能ガスケットで、ロケットや人工衛星の他、高温・高圧・高真空が要求される機器に使用されています。

## B 太陽光発電



### 太陽光発電事業

九州バルカーの敷地内に設置されたメガソーラーは、日々クリーンなエネルギーを生み出し、地球環境の保全と地域への貢献につなげています。

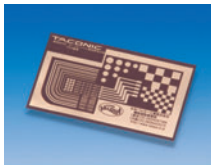
## C 変電所



### ふっ素樹脂加工品

高い絶縁性能を生かし、落雷の影響を無くす機器や送電量をコントロールする機器で用いられます。

## D 高速通信機器



### ふっ素樹脂基板

PTFEの優れた電気特性と耐候性を生かした基板材料がアンテナ機器周辺および自動運転にも使用され、安全・高速・大容量通信の実現に寄与しています。

## E 建設機械



### リング

静的・動的シールの代表的な製品で、用途に応じたゴム材料を使用することにより幅広い産業からのニーズに対応しています。



### スラストプレート

ショベルカーなどのヒンジ可動部の隙間に組み込まれ、隙間調整、鳴き防止、カズリ防止などの役割を担っています。

## F 自動車



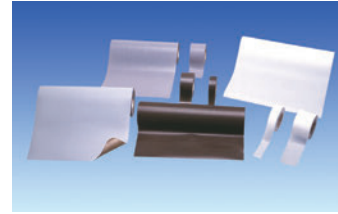
### オートマチックトランスミッション(AT)用ガスケット

ATを制御する油圧コントロール装置(バルブボディ)に使用されるガスケットで、装置内の油をシールすることにより滑らかで応答性の良い変速を行うために使用されています。

## N 医療機関

### ふっ素樹脂切削テープ

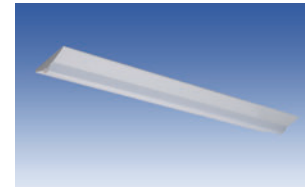
ふっ素樹脂を高度な技術で切削した気密性・摺動性に優れた製品で、注射器用滑栓などに使用されています。



## M 工場・オフィス

### LED照明

低消費電力で長寿命が特徴の製品です。豊富なラインアップで、幅広いニーズに対応可能であり、環境負荷の低減にも貢献しています。



## L 船舶

### グランドパッキン

作動軸周辺からの漏れを防ぐ製品で、主に流体の搬送や遮断といった機能を担う回転ポンプやバルブに使われています。



### ふっ素樹脂ライニング ISOタンクコンテナ

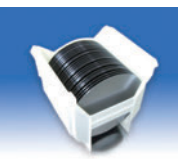
化学薬品に強い、表面が平滑である。などのふっ素樹脂の特性を生かし、流体の純粋性を保ち目的まで搬送します。



## K 半導体工場

### 再生シリコンウエハー

半導体製造装置の動作チェックなどで使用されたシリコンウエハーを、独自のノウハウで研磨・洗浄し、新品同様に再生・提供することで、環境負荷低減に貢献しています。



### ふっ素樹脂ライニングタンク

ふっ素樹脂シートで内貼りした薬液用タンクで、半導体製造で使用される超高純度の薬液の貯蔵、搬送に欠かせない製品です。



### 高機能エラストマー

不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施した製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな環境を保っています。



### ボンデッドゲートシール

高機能エラストマーと金属の一体型シールです。高いシール性を持ち、シリコンウエハーの搬入口に用いられています。



## J 製鉄プラント

### 高機能シートガスケット

従来の製品の性能を大きく上回り、特に高温耐性が要求されるプラントで活躍しています。



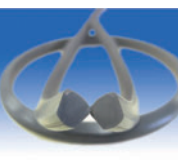
### うず巻形ガスケット

金属の補強をつけた製品で、高温・高圧で運転されるプラントの安全操業を支えています。



### 回転軸シール (LFR SEAL®)

摺動性に優れたシール材で、各種生産用機器の回転および揺動部向けに開発されました。



## I シールエンジニアリングサービス

### シールトレーニングセンター (STC)

バルカーの持つシールエンジニアリングテクノロジーをお客さまと共有し、プラントの安全な操業、機器の確実な作動につなげています。シール材の選定や適切な使用方法についての座学と、現場の配管フランジを模擬した実習を行う体験型研修施設で、人材育成の場を提供しています。

### シールトレーニングビークル™ (略称: STV)

シールトレーニングビークル™は、ガスケット施工の教育に関する機器を搭載した出張講習車です。



## G 化学プラント

### ふっ素樹脂ライニングボールバルブ

化学薬品に強いふっ素樹脂を接液部全面に採用し、幅広い種類の流体の制御に活躍しています。



### ふっ素樹脂ガスケット

化学薬品に強い素材でできており、配管や機器のつなぎ目から薬液やガスが漏れるのを防いでいます。



### ふっ素樹脂ライニング鋼管

化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を生かし、中を流れる流体の純粋性を保っています。



## H ポータブルメディア

### ふっ素樹脂テープ

高い絶縁性と優れた加工性を持ち、通信機器の性能向上と小型化に貢献しています。



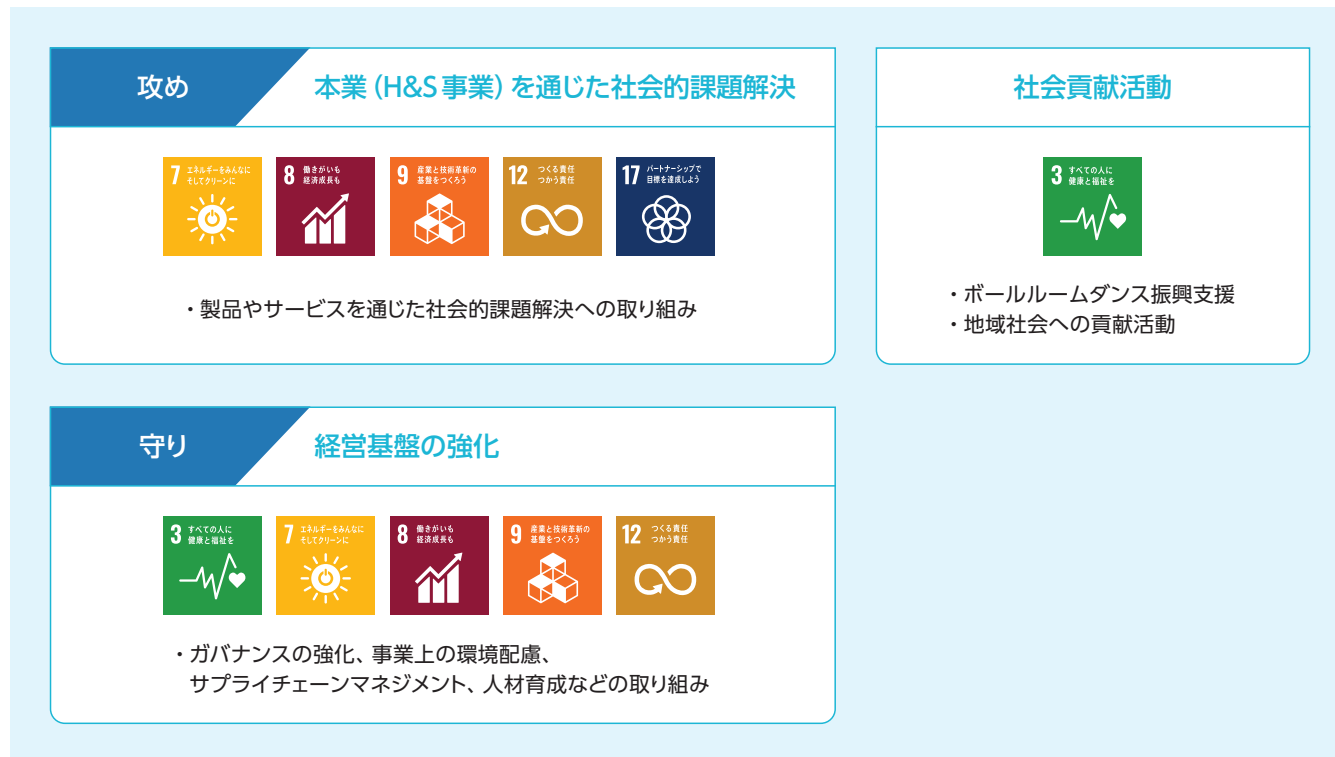
# SDGsの考え方および方針

バルカーグループは地球市民の一員として、事業活動を通じてサステナビリティ重要課題に積極的に取り組み、SDGs、持続可能な社会の実現のために貢献していきます。

## SDGs 貢献への取り組み

バルカーグループは、創業100周年(2027年)のありたい企業像で掲げた「より良き地球市民として『環境・社会・企業統治』への積極的な取り組み」を行うため、SDGsの全17のゴールのうち、主要事業(本業)を通じて貢献できると考えられる目標を5つ、企業活動全体を通じて貢献できると考えられる目標を6つ特定し、攻めである「本業(H&S事業)を通じた社会的課題解決」、守りである「経営基盤の強化」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進しています。

ルのうち、主要事業(本業)を通じて貢献できると考えられる目標を5つ、企業活動全体を通じて貢献できると考えられる目標を6つ特定し、攻めである「本業(H&S事業)を通じた社会的課題解決」、守りである「経営基盤の強化」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進しています。



### SDGs (持続可能な開発目標)

SDGs(持続可能な開発目標)は国際社会の問題解決のため2030年までに達成すべき目標として、2015年に国連で採択されました。17の目標と169のターゲットから成り、政府だけでなく市民や民間企業も実現への貢献を期待されています。

# サステナビリティ マネジメント

バルカーグループは「サステナビリティ」を重要な経営課題と位置付け、2022年、「バルカーグループCSR推進委員会」から「バルカーグループサステナビリティ委員会」へと名称を変更しました。企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、人類の豊かさと地球環境に貢献するため「VALQUA Sustainable Action」(バルカー サステナブル アクション) を着実に実行していきます。

## バルカーにとってのサステナビリティ

バルカーグループはサステナビリティを、【企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、健全で持続的な成長と持続可能な社会を実現すること】と考えています。

バルカーグループは、これからも、人類の豊かさと地球環境に貢献するために、事業活動を通してサステナビリティ活動を推進し、「価値の創造と品質の向上」を追求し続けていきます。

## CSRからサステナビリティへ

2022年4月、サステナビリティ活動を加速するため、従来の「CSR」を「サステナビリティ」として拡充して捉え直し、推進体制を「バルカーグループCSR推進委員会」から「バルカーグループサステナビリティ委員会」へと名称を変更し、体制を強化しました。また、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを

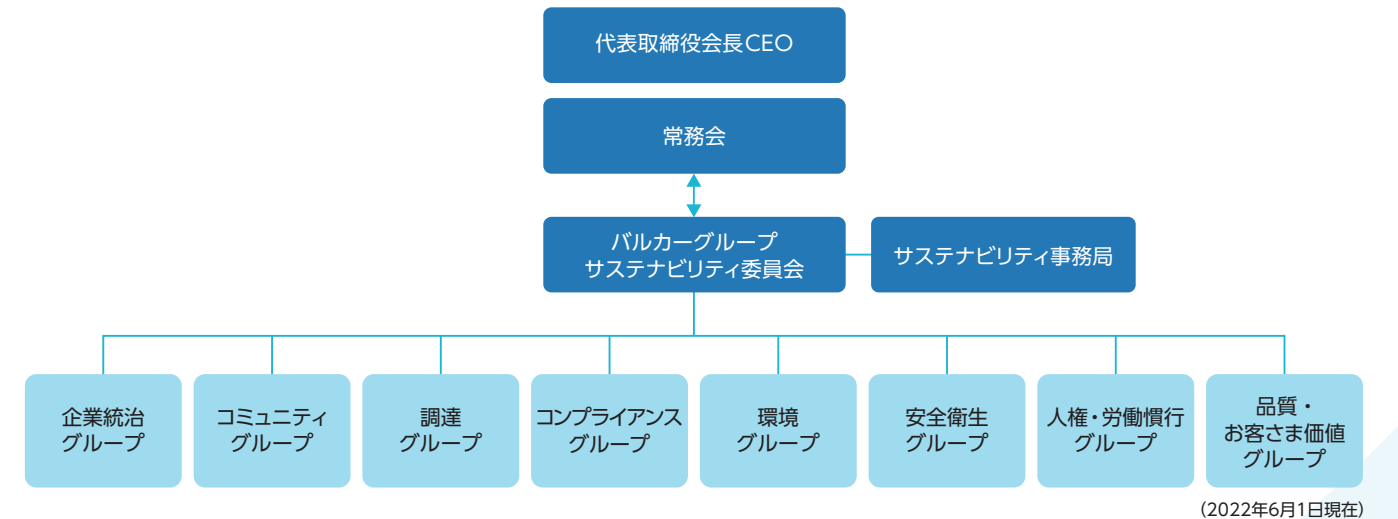
「VALQUA Sustainable Action」とし、今後、次の活動を進めていきます。

1. サステナビリティ経営に資する重要課題の見直し
2. 重要課題ごとの具体的な目標設定と進捗管理
3. サステナビリティレポート等を通じた経営戦略とつながるサステナビリティ活動状況の開示拡充

## サステナビリティ推進体制

「バルカーグループサステナビリティ委員会」をグループ全体のサステナビリティ活動を議論する重要な会議体として位置付け、取締役専務執行役員を委員長として、バルカーグループの執行役員で構成しています。半期に1回定期的に開催するほか、必要に応じて適宜開催し、その結果を半期ごとに常務会で報告しています。

### ▼ サステナビリティ推進体制



(2022年6月1日現在)



# サステナビリティ重要課題

バルカーグループでは、現在、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、環境、安全衛生、サプライチェーンマネジメント、人材・人権、顧客満足、コミュニティの8つを重点領域とした、16の重要課題を設定し、重要課題に沿った具体的かつ積極的な取り組みを推進しています。2022年4月、従来の「CSR」を「サステナビリティ」として拡充して捉え直し、サステナビリティと経営戦略、事業計画との関連性をより重視し、サステナビリティ重要課題の見直しを進めています。

重要課題	何故・何のために	基本的な方針	主な取り組み	貢献するSDGs	
コーポレート・ガバナンス	01. 企業理念の浸透	企業理念を中心としたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指すため	企業理念「THE VALQUA WAY」を中心としたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指す	1)「THE VALQUA WAY」のグループ全体への浸透活動 2)「THE VALQUA WAY」理解と実践活動 階層別全社大会の開催 3)社内外へのビジョナリー経営の認知活動	3, 7, 8, 9, 12
	02. コーポレート・ガバナンスの強化	社会的責任を果たすための有効な意思決定の仕組みを持つことが重要であるため	「THE VALQUA WAY」のもと経営体制を構築し、その充実に努める	グローバルガバナンス体制の強化と、情報開示拡充のための取り組み	
	03. グループグローバルな活動の推進	グローバルな課題の解決には、グループが一体となって取り組む必要があるため	経営理念の「世界中のステークホルダーへ」に基づく社会的課題解決のために、バルカーグループ一体となって取り組む	グループ全体でのサステナビリティ活動、SDGs貢献活動の推進と、情報の開示拡充への取り組み	
	04. ステークホルダーとの対話	対話を通じて相互理解を深め、共通の社会的課題の解決に取り組むため	行動指針の「事業を通じた社会への貢献」を果たすため、ステークホルダーとの信頼関係を築き、協働を図り、社会的課題の解決につなげる	ステークホルダーとの対話機会の拡充のための取り組み	
コンプライアンス	05. 汚職・贈収賄の防止	贈収賄防止はもとより疑義が生じる行為も防止するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンス・マニュアル」に基づいた業務を遂行する	汚職・贈収賄の防止を含むリスク・コンプライアンス強化と、情報開示拡充のための取り組み	12
	06. 法令等の遵守	社会的責任を果たし、期待に応えていくために、コンプライアンス経営の徹底を図る	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンス・マニュアル」に基づいた業務を遂行する	法令遵守の実効性をさらに高めるための取り組み、開示拡充のための取り組み	
	07. 環境関連法令等の遵守	年々強化される環境汚染防止の法令違反による事業活動への影響を回避するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンス・マニュアル」に基づいた業務を遂行する	環境リスク・コンプライアンス遵守の徹底	
環境	08. 環境負荷物質の漏出防止と低減	高度な技術を生かし、環境負荷物質低減につながる製品やサービスで低炭素社会の実現に貢献するため	行動指針の「環境にやさしいモノづくり」のもと、社会的課題解決に資する製品や技術を提供する	環境汚染対策など社会的課題解決のための製品、サービスの開発と展開	7, 8, 9, 12, 17
	09. 事業上の環境負荷物質の低減	モノづくり企業として社会的責任を果たすため、環境に与えるマイナスの影響を最小化する事業活動を行うため	行動指針の「資産の保全と有効活用」のもと、環境資源を考慮した活動を行う	事業上排出される環境負荷物質の低減活動	
安全衛生	10. 労働安全衛生	健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整え、従業員の幸福と事業の発展へつなげるため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、働きやすい環境をつくる	安全衛生推進人材の育成など、各種労働安全衛生活動の推進	3
サプライチェーンマネジメント	11. サステナブル調達（紛争鉱物対応）	サプライチェーンのグローバル化に伴って複雑化した問題を解決するため	行動指針の「環境にやさしいモノづくり」のもと、「調達基本方針」に基づいた業務を遂行する	CSR調達ガイドラインに基づいた調達活動の啓蒙活動と推進	12
人材・人権	12. 人材の多様性確保	多様な人材が個性を生かし、自らの価値を高め成長できる環境を整備し健全で持続的な成長へつなげるため	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、従業員の多様性、人格、個性を尊重し、能力発揮しやすい環境をつくる	多様な人材の活躍推進と柔軟な働き方の推進	8, 9
	13. 人権の尊重	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、啓発活動を通して人権への配慮を徹底する	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、「バルカーグループ人権基本方針」に沿った事業活動の遂行	人権に関するさまざまな国際規範の理解と啓発活動の取り組み	
	14. 人材育成	自社の事業の発展に貢献できる人材を育成するため	行動指針の「チャレンジ精神にあふれた『学習と成長』への強いこだわり」のもと自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人材を育成する	1)バルカーパーソンの育成 2)グループ経営を担うコア人材の開発 3)拠点経営を担うコア人材の開発 4)各事業部・各社での人材の育成	
顧客満足	15. 品質の向上と顧客の安全・安心	国内外のお客さまの安全面での課題をともに解決し、安心と満足を提供するため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、自社だけでなく、国内外のお客さまの安全衛生も提供する	1)製商品の品質の管理と、安全な使用のための情報提供・サービス 2)お客さまの安全・安心のための製商品、サービスの展開	9, 12
コミュニティ	16. スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生	スポーツ振興支援や、地域に根差したサステナビリティ活動を通じて、安全・安心で豊かな社会づくりに貢献するため	行動指針の「地域社会との共生」のもと、スポーツ振興支援や、地域に根差した社会貢献を行う	1)ボールルームダンスの振興支援を通じた社会貢献活動 2)事業所周辺の緑化活動、寄付活動などの社会貢献活動	3

## サステナビリティ重要課題 (マテリアリティ) の特定プロセス

### Step 1 社会課題の認識

GRIスタンダード、ISO26000、国連グローバル・コンパクト、SDGs（持続可能な開発目標）、RBA行動規範などの国際的な基準・ガイドラインを参考に、社会課題項目を洗い出しました。

### Step 2 ステークホルダーにとっての優先度の特定

Step1で洗い出した社会課題項目に対して、各種評価機関の調査や顧客アンケートなどにおける注目度を指標化し、ステークホルダーにとっての優先度を特定しました。

### Step 3 社会課題のマッピング・重要課題の特定

Step1で抽出した社会課題項目を、Step2で特定した「ステークホルダーにとっての優先度」と「バルカーグループにとっての優先度」の2つを座標軸としたマトリクス図表へマッピングし、優先度上位の項目を重要課題としました。

### Step 4 重点課題の決定

2019年度、常務会での承認を得て、バルカーグループのCSR重点課題が決定しました。

### Step 5 重点課題のPDCA マネジメント・見直し

2022年4月、従来の「CSR」を「サステナビリティ」として拡充して捉え直し、サステナビリティと経営戦略、事業計画との関連性をより重視し、重要課題の見直しを進めています。今後は、より具体的な目標・指標の策定を推進し、目標・指標に対するの進捗管理を行ってまいります。



「THE VALQUA WAY」100周年を超えて

# 健全で持続的な成長のための ビジナリー経営のさらなる強化



## 今年度からの新中期経営計画

2027年の創業100周年まであと5年に迫った今期にあたり、バルカーグループは新たな2年間の中期経営計画“New Frontier 2023”（以下NF2023）をスタートさせ、【激変する社会情勢の中、「THE VALQUA WAY」のもと顧客の信頼に応え、H&S\*の両輪で新たな価値を創造し続ける企業を目指そう】というスローガンを掲げました。

新型コロナウイルス感染症の拡大と同時期にスタートした前中期経営計画“New Frontier 2022”（以下NF2022）は、コロナ禍の不透明かつ不安定な事業環境下で、外部環境のプラス面が幸いし、1年前倒しで目標を達成することができました。同時にバルカーグループが長年取り組んできた企業理念「THE VALQUA WAY」を中心としたビジナリー経営の取り組みが少なからず奏功した結果とも考えています。

しかしながら、ここ数年の社会を取り巻く環境の激変と、もはや何が起ころうとも不思議ではないという状況を超え、「すでに何が起きている、もしくは起こりつつある状況」であるとの圧倒的な危機感こそがNF2023の出発点であり、現状認識の根底にあります。

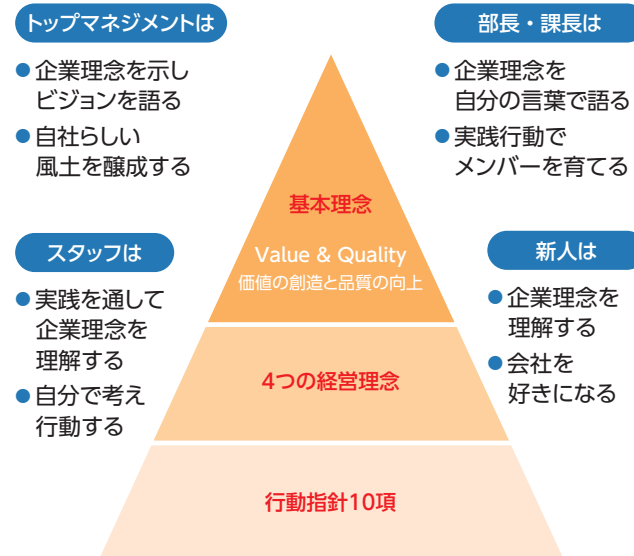
こうした状況から、NF2023の戦略の遂行にあたっては、変化に適切に対応し、これら変化を新たな価値創出の機会と捉え、会社のあり方を根本から見直すという「CX」（コーポレートトランスフォーメーション）に果敢にチャレンジし、リスクに応じた軌道修正を柔軟かつ迅速に行っていく必要があると認識しています。

\*H&S:付加価値の高いH（ハード=製品）に、顧客視点に立ったS（サービス）を付加し、顧客価値の最大化に向けたソリューションを提供する。

## 健全で持続的な成長のために

2020年に掲げた、創業100周年に目指すありたい企業像は、人類の豊かさと地球環境に貢献するための「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」です。全ての国、企業、個人が持続

### ▼「THE VALQUA WAY」の共有



可能な社会を実現するための主体的な取り組みを要求される中、バルカーグループは健全で持続的な成長を実現するために、まずNF2023で失敗を恐れず大胆に「CX」にチャレンジし、次なる成長の土台づくりに取り組んでいきます。

創業時からの基本理念「Value & Quality」（価値の創造と品質の向上）は社名の由来でもあり、バルカーグループが何のために存在し、社会から何を期待されているのかを確認し続ける基盤として存在しています。この基本理念をさらにブレイクダウンした「4つの経営理念」と「行動指針10項」で構成された不変の理念こそが企業理念「THE VALQUA WAY」であり、当社グループの根幹となっています。

「THE VALQUA WAY」は、社是、社訓、ビジョン、目的などを重ね合わせた当社グループ独自の概念です。また、日ごろの行動における判断基準や、迷ったときの羅針盤、さらにはリスク管理の観点も併せ持つ共通のコミュニケーションツールとしてきわめて実践的な側面もあり、従業員にとって安心、誇

り、自立、成長を後押ししてくれる指針でもあり、「THE VALQUA WAY」を追求する過程の中で見つけた自らの「MY VALQUA WAY」を共有する場として、2009年より毎年全社大会を開催しています。チャレンジ精神や顧客感動を追求する攻めの側面と、コンプライアンス遵守・ルール重視の守りの側面から、海外も含めた従業員全員がそれぞれ活動テーマを設定し、そのプロセスや成果を発表するこの大会の開催は14回を数えました。

これからも「THE VALQUA WAY 理解と実践活動」を通してビジナリー経営を深化させ、社会の発展のため溢れる勇気と覚悟を持ったグローバルな人材育成に努めます。

## ビジナリー経営のさらなる強化 「THE VALQUA WAY」の浸透のために

昨年度までの中期経営計画NF2022は、創業100周年を超えた次の時代に、さらなる健全で持続的な成長を実現するための事業基盤の再構築のため、2020年をバルカーグループの「CX元年」と位置付けました。しかし、NF2022では具体的に新たな取り組みを実行するまでには至らず、NF2023では「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」の具現化に向け、大胆なM&Aや業務提携の加速による新素材・新市場・新事業への参入など具体的な施策を断行し、新たな成長の土台づくりにチャレンジします。

激しい環境変化に迅速かつ的確に対処し、NF2023を確実に遂行していくためには、長年取り組んできたビジナリー経営の

一層の強化が必要と考え、今年度、「THE VALQUA WAY推進室」を新設するとともに、このビジナリー経営強化の推進力となる企業風土の改革にも取り組んでいます。従業員のマインドを向上させる施策として、グループ全従業員のエンゲージメント向上、働き方改革と生産性向上を目的にしたリモートワーク推進を図り、「企業理念の理解と実践強化」「企業文化の醸成と定着」を押し進め、ビジナリー経営強化につなげていきます。

バルカーグループは、これからもビジナリー経営を推進し、グループ一丸となって、健全で持続的な成長、そして持続可能な社会の実現に貢献していきます。



## Through Creative Technology(独創的技術で)

我々は、自由・闊達な風土のもと独創的で高度な技術を創造する

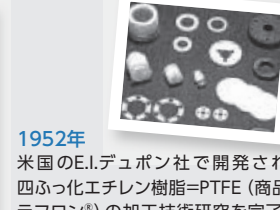
技術部門に限らず全従業員が“過去、他社、他人と違うことをやる”環境変化に対応する自己変革が求められている



1927年 創業当時社屋



1950年代 当時の研究風景



1952年 米国のE.I.デュポン社で開発された四ふっ化エチレン樹脂=PTFE(商品名テフロン®)の加工技術研究を完了し、日本で最初の製品化。商品名を「バルフロン®」として生産、販売を開始



1982年 当時、日本最大級のふっ素樹脂ライニングタンク



CDOメッセージ

# デジタルの力で競争環境を変えていく



株式会社バルカー  
取締役 専務執行役員 CDO  
兼 事業変革推進担当

中澤 剛太

2021年3月に入社し、CDO（最高デジタル責任者）を務めております。CDOのミッションの一つとして推進しているDXの概要を紹介いたします。デジタル技術を活用して、部門の垣根を超え、組織構造や企業文化を変えながら、新たな事業の創造につなげていくことが大きなDXの流れです。これまでのキャリアで新規事業創出に携わってきた経験を活かし、より一層、当社の持続的な企業価値の向上に寄与する変革に挑んでまいります。

## DXがもたらす変革

「DX」(デジタルトランスフォーメーション)という言葉が定着して久しいですが、当社だけでなく製造セクター全体でも、DXは始まったばかりという状況です。DXは企業の競争条件、産業全体の競争環境を大きく変えるものです。例えば個人向け金融サービスをとってみても、20年前はいわゆる「資産家」のみを相手にした事業であり、各企業のKPI(目標値と達成度を測る指標)は取引額であり投資額といったものでした。しかし、デジタルの浸透により、口座開設時の手作業がなくなり、毎月の帳票送付からも解放され、オペレーションコストが下がった途端、そのターゲット顧客は大きく広がりました。さらに「顧客と継続的につながる」というデジタルの特性から、新たな商品・サービスの紹介(営業)も既存のデジタルサービスの上で展開する形となり、顧客ターゲットの広がりに一層の拍車をかけ、重要KPIは取引額から口座数に変容しています。DXは単なるデジタル技術の活用ではなく、競争環境を大きく変えるもの。当社はこうした認識を全社で共有しつつ、下記の取り組みを含め、産業全体の変革を先読み、変革を牽引する施策の展開を加速していきます。

## 限界コストゼロによる顧客層の拡大

上述の通り、デジタルの特性の一つは「限界コストゼロ」であり、その効果は当社に大きな成長余地を生み出します。例えば、

樹脂事業一つとっても、営業を行い、顧客ニーズを把握し、製造し販売する。この流れの中で多大なる工数が発生します。そのため、小口の需要には対応しきれず(かつての金融業界と同様に)大口需要に集中せざるを得ない状況になっており、売上機会



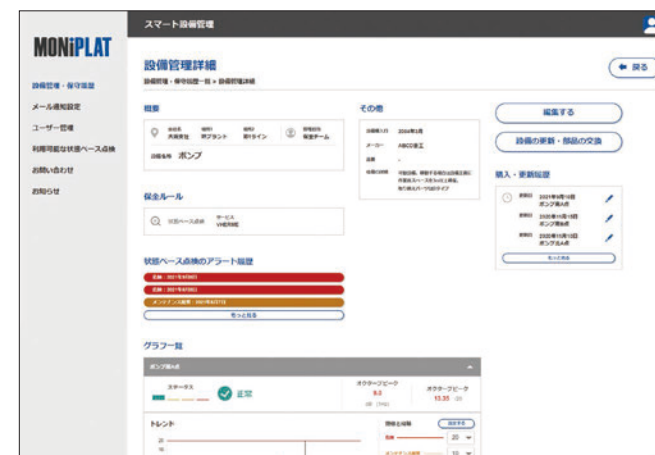
樹脂素材提供の一元管理サイト「素材Pro」。提供可能な樹脂素材、サイズ、充填材料などの簡単検索や、見積もりなどが可能に

の損失にもつながっています。こうした状況の中、限界コストゼロ、それに基づくターゲット顧客の拡大を進める第一歩として、樹脂素材提供を一元的に行うウェブプラットフォームの展開を今春より始めました。当社が提供できる素材、サイズ、充填材料などの情報をワンクリックで検索でき、ワンストップでの見積もり依頼・発注が可能となります。裏側の大部分のオペレーションもデジタル化することで、素材販売という一部領域からではありますが、限界コストゼロに向けた取り組みとなっています。

さらに、樹脂素材分野でのこの取り組みをさらに発展させ、樹脂加工品事業でも同様のシステム構築を進めています。加工品になると、デジタルを通じた図面の解釈や見積もり作業はより複雑になりますが、時間をかけた検討・開発の中で、今年中の市場展開を計画しています。もちろん、その先には、樹脂に限らず、当社事業の一つの柱であるシール製品事業における限界コストゼロも視野に入っており、加速度的に取り組みを進めてまいります。

## AIソリューションの事業化

「限界コストゼロ」を起点に顧客層を拡大し、既存事業を拡大していく上記取り組みとは別のもう一つの柱が、AIソリューション事業の立ち上げ・展開です。シール製品という保守領域に近い製品の提供を通じて、「ハードを超えた保守ソリューション」のニーズを数多くのお客さまから頂戴する中、昨年12月にAIベンチャー「リッジアイ」との資本業務提携を発表しました。本提携を土台としてソリューション開発を進め、その成果として、



遠隔監視プラットフォーム「スマート設備管理」。同一画面から、さまざまな設備の遠隔監視・予知保全ソリューションを可能に

本年中に設備の遠隔監視プラットフォームの展開を開始いたします。これは、さまざまな設備の遠隔監視・予知保全ソリューションを同一の管理画面で利用でき、ユーザー通知設定やアラート管理も、それぞれのソリューションごとにワンストップで設定できるものとなります。足元では、リッジアイ等との連携の中で自社開発したソリューションが中心となりますが、外部サービスとの連携も同時並行で進めており、将来的には、ニッチなものからメジャーなものまで、多様なラインナップを揃えていきます。

デジタルの特性である「顧客とのつながり」を活かしながら、新規に拡充されるソリューションをプラットフォーム内で紹介し、簡単にお試しいただける環境を整え、一步一步大きな事業化を目指していきます。

## DXをさらに前進させるための組織強化

以上ご紹介しました通り、当社のDXに向けた取り組みは着実に前進している中で、今後より重要になってくるのは、お客さまからのフィードバックをベースにした飽くなき使い勝手の改善であり機能強化です。そのための土台として、昨年より社内開発・改善を完結できるデジタル開発チームの組織化を進めています。プログラマーやシステムエンジニアはもちろん、使い勝手の改善を進めるウェブデザイナー、機能強化を牽引するデータアナリストなどを含め、体制を整えています。今後も、ソリューションの拡大とともに不断の組織強化を進め、ソリューション企業への進化を進めてまいります。





# バルカーベトナムと ともに成長する 女性管理職の挑戦

貢献する  
SDGs



(本稿は本人の日本語執筆に加筆・修正をしています)

## 日系企業らしくない社風への失望から、 ともに成長していく決心へ

大学を卒業後、日本で2年間勉強し、2013年にホーチミン市の日系企業へ就職しました。2年後、出身地のベトナム北部へ戻った時、長く勤められる職場へ転職したいと思うようになりました。そしてバルカーベトナムの営業拠点として2年目を迎えるハノイ支店の「長く勤務でき、将来キーパーソンになりうる営業職を募集中」という募集に魅力を感じ、2016年4月、バルカーベトナムに入社しました。

入社した頃ハノイ支店では、日本語をほとんど使わなかったり、日本の文化やマナーも感じられなかったり、入社面接時に訪れた工場と違い、日系企業の雰囲気は感じられませんでした。とはいうものの、言葉や文化の違いで上司と部下の壁も感じたことを覚えています。日系企業で働くことを旨としていた私にとって、「ここは大丈夫かな」と心配になり、将来のことを考えると「長く働けるのかな」と何度も自問自答していました。

転機は2016年8月、ASEAN顧客向けに開催された「バルカー・アセアンカンファレンス」です。私は会議の進行役を務めることになりました。イベントを通じて日本・タイ・シンガポールの同僚と会い、彼らのプロ意識と仕事に対する熱意に感銘を受け、ここで働き続けたいと感じました。

2017年にはタイ、2018年には本社での社内研修の機会を得て、働く国や環境が違って、バルカーの従業員は「THE VALQUA WAY」で共通の考え方を共有しながら仕事をしていることを実感し、さらに心強く感じました。学生時代に日本で生活した経験があるので、日本語や日本文化を他のスタッフより少し理解している点を活かし、会社と同僚のブリッジ役を果たして皆のエンゲージメントを高めていきたいとの思いがますます強くなっていきました。

その後2018年には係長、その半年後には課長を拝命して、重圧もありましたが、自分がやりたいことを実現するための環

境を与えられ、さらにモチベーションを高めて仕事に向き合えるようになりました。

2019年の瀧澤CEO視察時に、幸運にもCEOラーニングのメンバーに選ばれました。初めてで緊張しましたが、CEOが私たちの抱く疑問や考え方に一つひとつ答え、説明する中で「海外の生産・販売拠点のトップは、その国の人が務めることが一番いいと思っている。当社は、国籍や性別にとらわれず、やる気のある人材にキャリアアップのチャンスを与え全体で支える」とのメッセージが一番印象に残りました。ローカル採用の私でも成長のチャンスがあることに幸せを感じ、気分が最高潮になり、「社会への価値創造に貢献したい」「顧客に感動してもらいたい」という前向きな自分へ変わったと思います。



2019年度「THE VALQUA WAY」  
理解と実践活動の全社大会で  
第一席受賞を記念し、瀧澤CEOと

## バルカーベトナムの商習慣を乗り越えて 「THE VALQUA WAY」の実践へ

ハノイ支店の業績は2018年まで良くありませんでした。業績が悪いとモチベーションも上がりません。そんな中、2019年に重要な顧客で業績につながる絶好のチャンスがありました。しかし、ようやく面談できた顧客のキーマンとの話では、コンプライアンス上、好まれない商流をいきなり持ちかけられ困ったことがありました。

正直、申し入れに応じれば注文になり業績につながる、目標達成できる絶好のチャンスだとも思いましたが、普段実践している「THE VALQUA WAY」で考えると素直に納得できず大いに悩みました。

安易に「楽」な道を歩むことが過ちにつながらないか、「正正

堂堂と」「コンプライアンス遵守と誠実な行動」は担保できるのかなど、上司や関係部門に相談しながら一つひとつ誠実に対応したことで、顧客も私も安心できる注文につながり、この年は最高の結果を出すことができました。

この時に、業績貢献だけでなく、「THE VALQUA WAY」行動指針10項とのブリッジやグループ内のつながりを実感でき、少しは理解が深まったかな?という喜びを感じました。

## 次世代のリーダーを目指して

2021年4月から、海外経営幹部養成講座に参加する機会が与えられました。バルカーベトナムから2名、他に韓国、台湾のバルカーパーソンと合計7名で2年間かけて経営基幹職として成長するための学習の機会です。

昨年11月には、コロナ禍の中、本部長である役員が日本からバルカーベトナムへ来社され「業績を伸ばすことも大切だが、人材育成にもっと期待している」と直接聞かされました。それを聞いて私もそのとおりだなとつくづく感じました。私は管理職として支店で一番経験年数が長く、2019年度「THE VALQUA WAY」理解と実践活動の全社大会では名誉ある第一席を受賞することができました。会社や上司から学習と成長を続けることができる機会をたくさん与えられているという自覚をもって、会社の理念、戦略の落とし込みを推進し、会社と従業員の信頼関係の構築に注力したいと思います。

最近ではワーク・エンゲージメントを高めることで部下を育成していくために、部下を信じて仕事を任せるミッションにも挑むべきだと思うようになりました。これらのミッションを果たすことで、ハノイ支店、ひいてはバルカーベトナムのさらなる価値創造に貢



2021年、顧客の社長と  
一緒に



バルカーベトナム ハノイ支店 営業課 課長  
Pham Thi Phuong Minh  
(ファム・ティ・フォン・ミン)

2016年に入社後、営業員として2年間現場を経験し、3年目には係長を経て、課長に昇進。ハノイ支店を牽引し、ベトナム国内での拡販や新事業の立ち上げのために日々邁進している。

献したいと感じており、最終的にはグループのネットワークの中で、ASEAN地域が他の地域に肩を並べることを夢見ており、自社の成長を通じて地域の発展に寄与することを願っています。

## 事業を通じてベトナム社会への 貢献のために

2021年4月、経営幹部養成講座の参加が決まってすぐ、光栄なことに2度目のCEOラーニングに参加できる機会を得ました。ラーニングでの瀧澤CEOの「せっかくバルカーに入ったのだから、長く勤めてぜひ一緒に何かをやり上げたい!」というメッセージはずっと忘れないと思います。経営環境が大きく変わっていく中で変革なくして存続は許されないという認識から、私は次世代の海外幹部として期待されていることを誇りに思い、次世代リーダーの創出に向けて「人材育成できる人材」になることを自覚し日々精進しています。

私はベトナム人の一人として、自分が生まれて今も暮らしているこのベトナムという国を愛しており、自分の国や故郷に少しでも貢献したいと思っています。その希望を叶えるには政府機関や公益企業へ就職すべきかと悩んだこともありますが、現在勤めているバルカーでは「事業を通じた社会への貢献」を強く意識しており、バルカーで仕事をする中で自分の国や故郷に貢献できると考えるようになり、その悩みもすっきり晴れていきました。バルカーの持続的な発展に貢献することを通じて、自分の国や故郷の持続的な発展に貢献したいという熱い想いを他のベトナム人の同僚にも伝え、みんなで一丸となって「THE VALQUA WAY」を軸に考え行動し、コンフォート・ゾーンを抜け出して大胆に変革を成し遂げ、グループの新たな「CX時代」に生き活きと輝くバルカーベトナムへと成長することを願っています。



2021年テト(ベトナムの旧正月)にハノイ支店のスタッフたちと



# コーポレート・ガバナンス



## 01 >> 企業理念の浸透

### 「THE VALQUA WAY」理解と実践活動

バルカーグループでは、グループ共通の企業理念「THE VALQUA WAY」を、羅針盤、行動規範として、日々の活動の基盤としています。8つの国と地域のバルカーグループの従業員一人ひとりが、自らの業務にそのマインドを落とし込み、自分事として、業務の中に問題意識を持ち、業務の改善・改革につなげる活動を行っています。

また、「THE VALQUA WAY」をより浸透させるため、1年を通しての活動を共有する場として実践発表会を毎年実施しています。この実践発表会は、いかに「THE VALQUA WAY」を自身の業務に落とし込みができたかを発表するものです。

国別・階層別に予選会を行い、毎年1月に予選を勝ち抜いた代表者による全社大会を開催しており、2021年度で14回目を数えました。経営基幹職は、毎年10月に実践発表会を開催していますが、職責に応じた活動と発表内容になるよう、工夫を凝らし、2021年度は関係会社社長職と部長相当職の2部門に分けて開催しました。

これらの活動をより充実させるには、対面での大会開催がベストですが、2021年度もコロナ禍が続きオンラインで実施するなど、運営上多くの制約を受けました。

しかしながら、コロナ禍やリモートワークで社内外のコミュニケーションに制約を受ける環境下でも、「THE VALQUA WAY」の浸透によって、この環境を前向きに捉え、CX（コーポレートトランスフォーメーション）とDX（デジタルトランスフォーメーション）に、グループを挙げて取り組んでいます。

さらに、2022年度、新中期経営計画「New Frontier 2023」（NF2023）のもと、ビジョナリー経営のさらなる推進を目指し、推進部署「THE VALQUA WAY推進室」を新設しました。

今後も、バルカーグループを挙げて、ひた向きかつ覚悟をもってビジョナリー経営の推進に取り組んでいきます。



オンライン表彰式の様子  
※後日、入賞者へ表彰状を送付



グループ全社の社員を部門ごとに分け、各部門の選抜による全社大会。授賞式もオンラインで開催



2021年度全社大会の様子  
※昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みオンラインでの開催

## 02 >> コーポレート・ガバナンスの強化

### コーポレート・ガバナンス

#### ■ 基本的な考え方

バルカーグループは、企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、シールエンジニアリングのパイオニアとして、企業の持続的な成長による企業価値の向上を実現するため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための経営体制を構築し、最良のコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでいます。

#### ■ コーポレート・ガバナンスの状況

経営環境の急激な変化に迅速かつ的確に対応するため、執行役員制度を導入し、取締役と執行役員の役割を分離した機動的なグループ経営体制を確立しています。また、弁護士1名、公認会計士1名を含む監査役が、取締役および執行役員の業務執行について監査を行うことで、経営に対する専門性の高い監視・監査機能を果たしています。

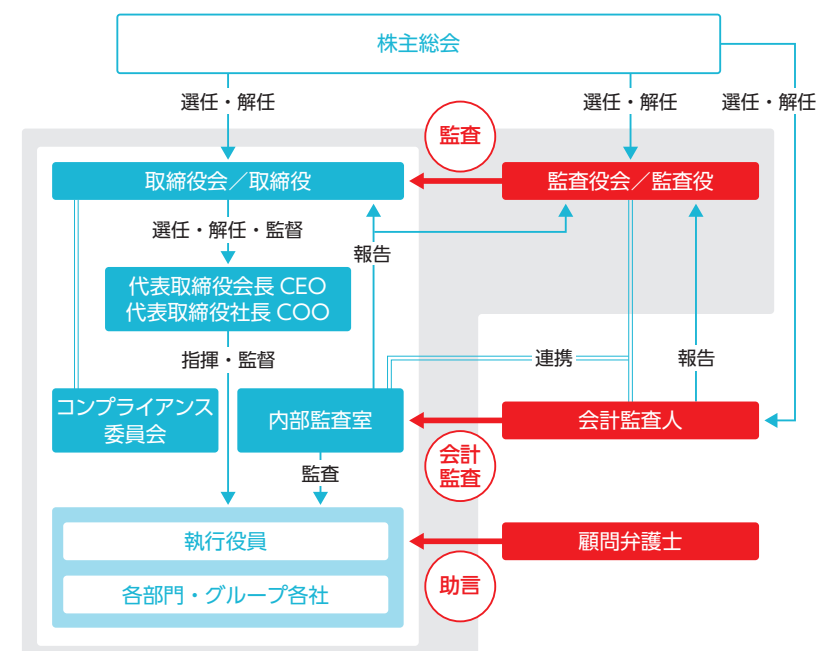
#### ■ 内部監査室

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価・提言を行っています。

#### ▼ 取締役会・監査役会の構成 (2022年6月1日現在)

取締役	7名 (男性5名、女性2名) うち社外取締役3名 (男性1名、女性2名)
監査役	3名 (男性3名) うち社外監査役2名 (男性2名)

#### ▼ コーポレート・ガバナンス体制図



(2022年6月1日現在)

### 内部統制システム

#### ■ 業務の透明性と信頼性を確保

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備・推進に努めています。会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役に決議し、この内容を外部環境・内部環境の変化に応じて適宜見直しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規定・規則や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

その一環として、財務報告が有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を受けた上で開示しており、財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続しています。





## 03 >> グループグローバルな活動の推進

### サステナビリティ活動と SHE 活動

#### ■ サステナビリティ活動の推進

バルカーグループは以前より、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、「H&S事業を軸とした活動」「ボールルームダンス支援」「地域社会に対する感謝の日」など、国内外のグループ会社

が一体となって取り組みを行ってきました。2021年からは、攻めである「本業（H&S）事業を通じた社会的課題解決」、守りである「経営基盤の強化」に、「社会貢献活動」を合わせた3つを軸とした活動を推進し、SDGs貢献への取り組みを強化しています。

また、2022年4月、サステナビリティ活動を加速するため、従来の「CSR」を「サステナビリティ」として拡充して捉え直し、推進体制を「バルカーグループCSR推進委員会」から「バルカー

グループサステナビリティ委員会」へと名称を変更するとともに、体制を強化しました。また、サステナビリティと経営戦略、事業計画との関連性をより重視し、重要課題の見直しを進めています。

今後もさまざまな社会課題の解決に向けて、グループ一体となったサステナビリティ活動を推進し、その開示にも努めていきます。

#### ■ SHE 活動の推進

バルカーグループでは、グループSHE委員会を設置し、SHE（安全、健康、環境）を一元的に管理しています。CEOを委員長、COOを副委員長とし、各グループ会社・事業所を担当する執行役員を委員としています。SHE委員会は年1回以上の開催とし、バルカーグループのSHE活動の「年度方針」「活動計画」の決定や「活動状況」の確認を行っています。また、その内容を各グループ会社・事業所に設置したSHEチームに展開し、グループ全体で取り組んでいます。

#### SHE 推進体制図

[https://www.valqua.co.jp/social/safety\\_health\\_environment/](https://www.valqua.co.jp/social/safety_health_environment/)



## 04 >> ステークホルダーとの対話

バルカーグループは、健全で持続的な成長を実現するため、「THE VALQUA WAY」のもと、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、信頼関係の構築を図るとともに、継続的な企業価値の向上を目指します。

ステークホルダー	ステークホルダーへの対応	主なコミュニケーションの方法
お客さま	H&S企業として、開発・調達・生産・営業のバリューチェーン全体で、お客さま視点に立った真のサービスソリューションを通して、お客さま価値の最大化の実現を目指しています。	●営業活動全般：日々の営業活動／販売店懇親会の開催／展示会の開催／お問い合わせ対応／CSアンケートの実施／安全データシート(SDS)／各製品カタログ／カスタマーサポートツール／技術資料の発行
株主・株主市場関係者	適切かつ公正な情報の開示を実施し、株主・投資家など株式市場関係者との建設的な対話を積極的に行っています。対話により得られた意見などを経営にフィードバックし、持続的な企業価値の向上の実現に活用しています。	●IR活動全般：株式市場関係者との対話／株主総会・決算説明会の開催／IRツール・資料の発行
取引先（調達先）	公平・公正、法令遵守、環境配慮、相互信頼を基本とした、CSR調達の推進に取り組んでいます。	●購買活動全般：取引先との会議／CSR調達ガイドライン／CSR調達アンケートの実施
行政・自治体	法令遵守と適切な情報開示に取り組んでいます。	●各種届出・各種会議
従業員	安全衛生の確保、人権の尊重、ダイバーシティ推進を基本として、従業員が最大限に能力を発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。	●従業員エンゲージメント活動全般：イントラネット／従業員エンゲージメント調査の実施／各種研修／自己啓発学習の支援／労使協議会の開催／社内通報制度による通報案件への対応／企業倫理ホットラインの開設
地域社会	グローバル社会、地域との共生を目指し、環境負荷の低減、社会貢献活動に取り組んでいます。	●社会貢献活動全般：スポーツ振興支援を通じた社会貢献／地域社会に対する感謝の日／従業員によるボランティア活動／地域社会・NPOとの対話、寄付活動

## 05 >> 汚職・贈収賄の防止

### リスクマネジメント

#### ■ 基本的な考え方

バルカーグループはステークホルダーとの信頼関係を維持し、事業を安定的に継続していくために、多様化するリスクとその影響を的確に把握し、コントロールできる管理体制を構築しています。

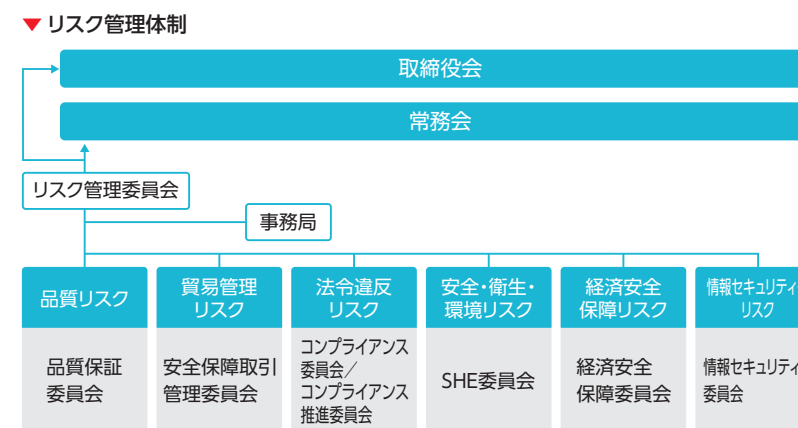
バルカーグループは、選択と集中による既存事業領域の収益拡大と新規事業領域の獲得による事業基盤の再構築を目指すとともに、組織単位でのリスクマネジメントとコンプライアンスの自律的遵守の強化をアニュアルポリシーで掲げ、取り組んできました。

2022年4月からの新中期経営計画NF2023においても、引き続き組織単位でのリスクマネジメントとコンプライアンスの自律的遵守の強化に取り組んでいます。

#### ■ リスク管理体制

バルカーグループはリスクマネジメントを強化するため、「リスク管理委員会」を設置し、国内外の事業環境の急激な変化と事業領域の拡大に伴って多様化するグループ経営上のリスクを一元管理しています。

大規模災害など事業の継続を脅かす事象が発生した場合に、グループの統制をとり迅速に対応するため、2020年に事業継続計画（BCP）マニュアルを策定し、運用を開始しています。



(2022年6月1日現在)

これからも、多様化するリスクに備え、リスクマネジメントの強化を図っていきます。

#### ■ 知的財産権管理

バルカーグループは、経営理念の一つに「独創的技術で」を掲げ、この独創的技術とサービスを融合させた「真のソリューション提供企業」への脱皮を目指しています。知的財産部では、企業活動で創出される価値を適切に保護し、お客さまの課題解決につながる製品やサービスの提供を支援しています。また、他者の知的財産権を尊重するために社内ルール・体制を整備し、自社製品やサービスが第三者の知的財産権を侵害しないよう、研究開発のさまざまな段階で調査を徹底しています。この調査は、知的財産部と研究開発部門の協力体制のもとグローバルに行うことで、国内のみならず海外においても、知的財産権の尊重を徹底しています。

#### ■ 国内外グループ会社における法令等の遵守

バルカーグループは、グループ全体の法令等の遵守を確実なものにするために、法律事務所、コンサルタント、法令情報提供サービス会社等の支援を受けながら、国内のみならず海外子会社に適用される関連法令を調査し、法令を遵守した業務の遂行を実践しています。国・地域ごとにその内容が大きく異なる法令等の遵守を徹底すべく、グループ全体で万全の態勢で臨んでいます。

### 腐敗防止

#### ■ 贈収賄防止の徹底

バルカーグループでは、全従業員に対して贈収賄防止の観点から周知を行うとともに、国内外の贈収賄規制に適切に対応するために、必要に応じて規定の見直しを行っています。また、国内・国外を問わずグループ全体の監査を実施し、贈収賄防止の徹底を図っています。

## 06 >> 法令等の遵守

### コンプライアンス

#### ■ 基本的な考え方

バルカーグループにおける「コンプライアンス」とは、法令遵守にとどまりません。他の企業の模範となるべく積極的に法令や条例以上の企業倫理を遵守し、社会貢献や環境への配慮にまで踏み込んだ企業行動の実践によって、ステークホルダーの要求・信頼に応え、社会における信頼を勝ち得ていくことだと考えています。このコンプライアンスの重要性を理解し実践することが、バルカーグループの持続的な成長・発展を約束するものであると固く信じています。

#### ■ コンプライアンスハンドブック

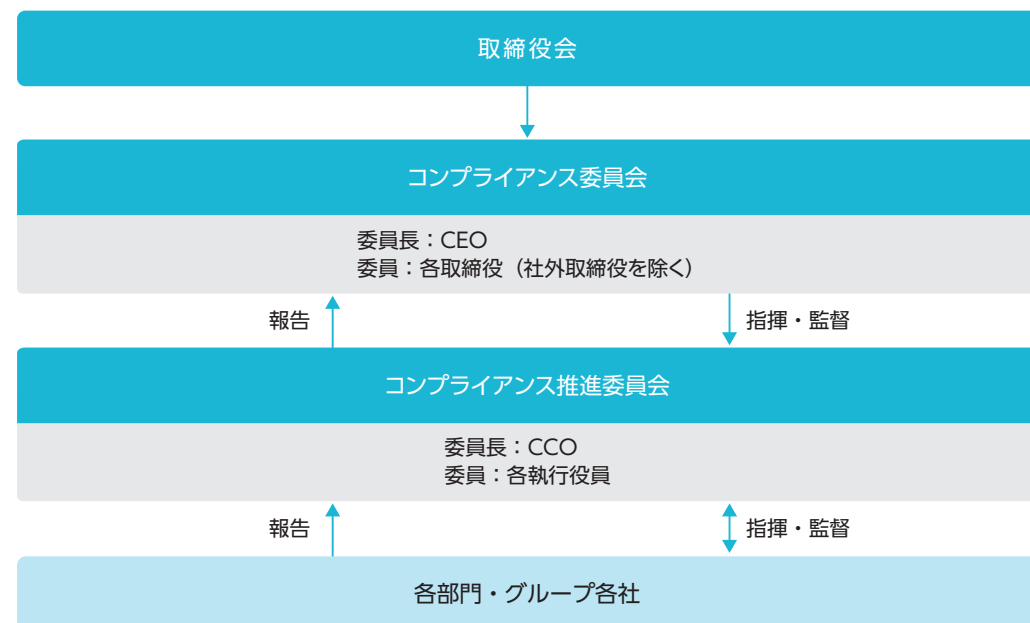
全グループ従業員の業務の指針とするため、「コンプライアンス・マニュアル」を2003年に

制定し、6言語（日本語、英語、簡体字、韓国語、タイ語、ベトナム語）に翻訳することで、全グループ全従業員が理解し、遵守すべきマニュアルとして活用してきました。

さらに、社会環境や要請の変化を踏まえ、具体的事例やチェックシートを盛り込むなど、内容を大幅に拡充させた「コンプライアンスハンドブック」（日本語版）および「ハラスメント防止のための行動ハンドブック」（管理職・リーダー用）を2020年5月に発行するとともに、2020年11月には役員向けに「企業経営とコンプライアンスー役員」の経営責任と重要課題ー」を発行しました。

海外拠点においても、従前の「コンプライアンス・マニュアル」に替えて、日本語版をベースに現地実情を踏まえた各国語版「コンプライアンスハンドブック」を2022年2月に発行しました。

#### ▼ コンプライアンス体制



(2022年6月1日現在)

#### ■ コンプライアンス体制

CEOを委員長としたコンプライアンス委員会と、その下にコンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー」(CCO)を中心に、グループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。

#### ■ 報告・相談・通報制度

全グループ従業員が、法令や社内規則などに関する報告・相談・通報ができる仕組みとして、

①意見箱、②社内相談窓口、③CEOへのダイレクトライン、④外部企業倫理ホットライン（7カ国語対応）、⑤社外弁護士への相談窓口といった、各種窓口を設けています。

この制度は、通常の指揮命令系統から独立して運営し、情報の秘匿と報告・相談・通報したことによって従業員に不利益が課せられることがないように配慮しています。なお、本制度の利用件数はリモートワーク環境のため減少し、2018年度、2019年度10件以上あった利用数が、2020年度4件、2021年度も4件でした。引き続き、利用減少の動向に注視しながら、適切な対応を行ってまいります。

## 07 >> 環境関連法令等の遵守

### 環境リスクマネジメント

#### ■ 活動体制

2021年度、中国は第14次5カ年計画による規制強化により、行政の立ち入り調査の頻度が激増しました。この中で、いくつかの指摘を受けましたがすぐに対応を行い、実際に環境汚染等が発生させた事例はありませんでした。そのほかの国内外生産関係会社での環境法令違反は0件でした。また全ての事業所で悪臭や騒音などによる近隣からの苦情発生はありませんでした。

国内外生産関係会社では、引き続きISO 14001システムによる環境活動を行っており、第三者認証も継続していきます。

特に法規制遵守については、ベトナムで施行予定の改正環境保護法への対応も含め、現地での外部情報機関を活用した情報収集、日本の外部情報機関を活用した各生産関係会社への

サポートの継続、各社の法令遵守内部監査体制により、違反未然防止の体制構築を進めています。

世界的にリスク管理強化が求められている製品含有化学物質については、chemSHERPA<sup>\*</sup>により川下への情報提供を適切に行っています。

#### ■ 各生産関係会社の法令遵守体制の整備・運用・監査の実施

国内生産関係会社では、ISO14001にて特定した法令一覧を共有し、月次で変化点を検証することで、各社の解釈間違い、見落とし防止を図る活動を継続しています。また海外生産会社がそれぞれ特定した法令についても、月次の変化点について、グループ全体で共有しています。

法令遵守内部監査体制を各生産会社で整備、運用を開始しました。監査で発覚した不適合に対応していくことにより、継続的な改善を図っています。

\* chemSHERPA: 製品に含有される化学物質情報を川上企業から川下企業までサプライチェーン全体で適正に運用するため、経済産業省主導で2015年10月にリリースされたデータ作成支援ツールおよび情報伝達ファイルの名称





貢献するSDGs



## 08 >> 環境負荷物質の漏出防止と低減

### 漏出防止と低減のための取り組み

#### ■ 2021年度事業活動に伴う環境負荷

バルカーグループでは事業活動におけるエネルギーや水などのINPUTや、エネルギー使用によるCO<sub>2</sub>の排出、生産工程から出る廃棄物などのOUTPUTを把握することで、環境負荷の全体像を捉えています。

国内外のグループ会社から、正確かつ迅速に収集し一元管理するため、サステナビリティ情報収集システムを導入し、適正な温室効果ガス係数を用いて算定、開示しています。

#### ■ 水素エネルギー実用化に向けた取り組み

燃料電池自動車等では、水素の高圧貯蔵タンクへの貯蔵効率を向上させるため、圧縮水素のさらなる高圧化が進められていますが、水素の高圧化、低温化により、水素漏洩リスクの増加という問題点が指摘されています。

バルカーグループでは、こうした問題点を解決するため、広い温度範囲で使用可能な高圧水素ガス用シール材の開発を行い、それに成功しました。

バルカーの強みである技術力で、水素エネルギーの実用化に向けて貢献していきます。

#### ■ 再生可能エネルギー導入の取り組み

バルカーグループのグローバルな再生可能エネルギーの導入状況は、2013年に九州バルカーで保有していた遊休地に太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギー発電を始めました。長崎県では半導体の基板となるシリコンウエハーの再生加工を主要事業としているバルカー・エフエフティで、太陽光発電設備を設置し自社消費を行っています。海外では台湾バルカー国際の新工場が2022年1月より稼働し、太陽光発電設備を設置し再生可能エネルギー発電を行っています。これらにより、化石燃料を用いた火力発電で排出されるCO<sub>2</sub>の削減に寄与しています。

#### ■ 省エネルギーへの取り組み

奈良県にあるバルカー シール ソリューションズは、2020年度における電力使用の合理化ならびに有効利用による企業の省エネ、省CO<sub>2</sub>活動を通じて低炭素社会実現に寄与したことに對して、表彰をされました。

- 奈良県電力利用合理化委員会 最優秀賞
- 近畿電力利用合理化委員会 委員長賞

今後も継続して、創業100周年(2027年)のありたい企業像を実現すべく積極的な省エネ活動を行い、環境にやさしいモノづくりを実践していきます。

### 環境データをはじめとするサステナビリティデータ

近年、持続可能な社会の実現に向けて、気候変動や資源問題などに対する企業の情報開示が一層求められています。バルカーグループではコンプライアンス遵守はもとより、環境データをはじめとするサステナビリティに関するデータをステークホルダーに対し、正確、かつ迅速に開示するため、2019年にサステナビリティ情報収集システムを導入。毎年、国内12拠点・海外13拠点の計25拠点から各種データを集計・集約しています。

これにより、環境データ、サステナビリティデータの一元管理によって見えてくる行動計画などのパフォーマンス向上や、GRIスタンダード、TCFDなどに沿った情報開示の拡充に努めています。

#### サステナビリティデータの管理項目

- 環境データ (GHG、廃棄物、化学物質等)
- 従業員データ (男女別正社員数・派遣社員数等)
- その他 (人権・福利厚生)

(2022年6月1日現在)

## 気候変動への対応

株式会社バルカーは、2021年5月に「気候関連財務情報開示タスクフォース」(TCFD<sup>®</sup>) 提言への賛同を表明するとともに、提言の推進を目的に設立された「TCFDコンソーシアム」に加入しました。

当社では企業理念「THE VALQUA WAY」に基づくビジョナリー経営を推進しており、社員の一人ひとりが「安全・衛生・環境」は人類共通の重要テーマの一つであることを強く意識した企業活動を実践しています。また、創業100周年(2027年)を区切りとする長期経営目標では、ありたい企業像として「未来と未知に挑むチャレンジングな企業-人類の豊かさや地球環境に貢献するために-」を掲げ、より良き地球市民として「環境・社会・企業統治」に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献できる企業となることを目指しています。

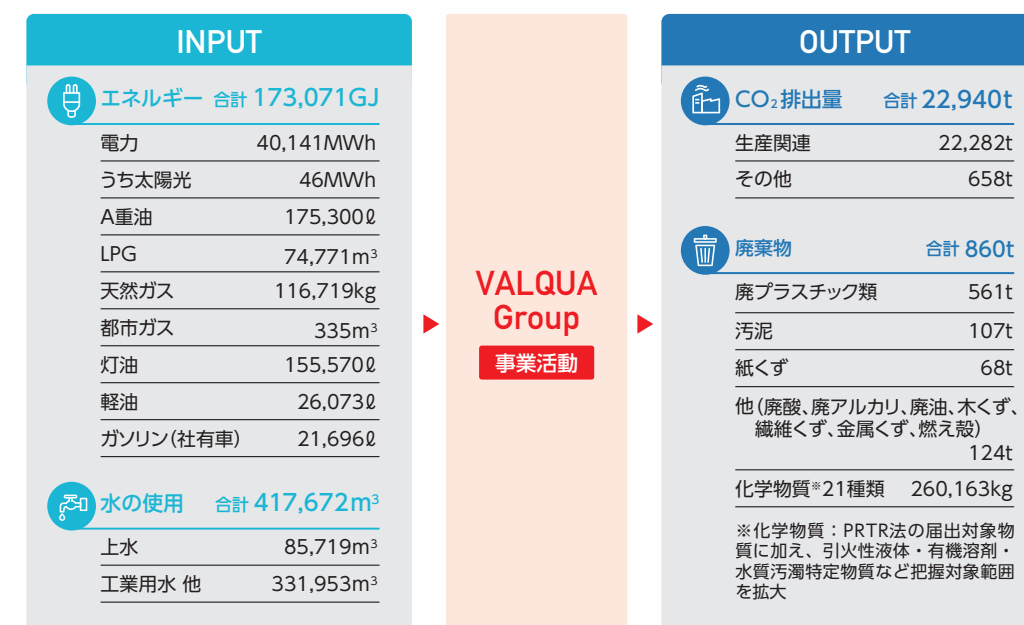
この度、環境への積極的な取り組みの具体的なステップとして、TCFDの提言に賛同し、TCFDコンソーシアムに加入いたしました。 今後は、まず気候関連のリスクや機会に対する自社の分析を行い、その結果をもとに、TCFD で推奨される項目を随時開示していきます。



※ TCFDについて  
<https://www.fsb-tcfd.org>  
 G20の要請を受け、主要国の金融関連省庁および中央銀行より構成された金融安定理事会(FSB)により、2015年12月に設立されたタスクフォースで、2017年6月に気候関連の財務情報開示に関する提言を公表しました。現在、世界中の金融機関や企業、政府などがTCFDの提言に賛同しています。

## 09 >> 事業上の環境負荷物質の低減

### ▼ マテリアルフロー



VALQUA Group  
事業活動

対象：バルカーグループの国内外事業所(一部、地方営業所、駐在所、海外の販売会社など規模の小さい16拠点を除く)  
 集計期間：2021年4月～2022年3月

主要な環境負荷の推移

■ 温室効果ガス排出量 (スコープ1・2)

2021年度は2020年度に比べて絶対量で621tの排出量増。内訳は生産量の増加に伴い3,817t増、合理化・原価低減活動による温調管理の見直しや老朽化設備の更新の効果で242t削減、その他生産増による効率向上や各国の電力排出係数変化の影響により2,954t減少しました。この結果売上高原単位で14%の削減となりました。

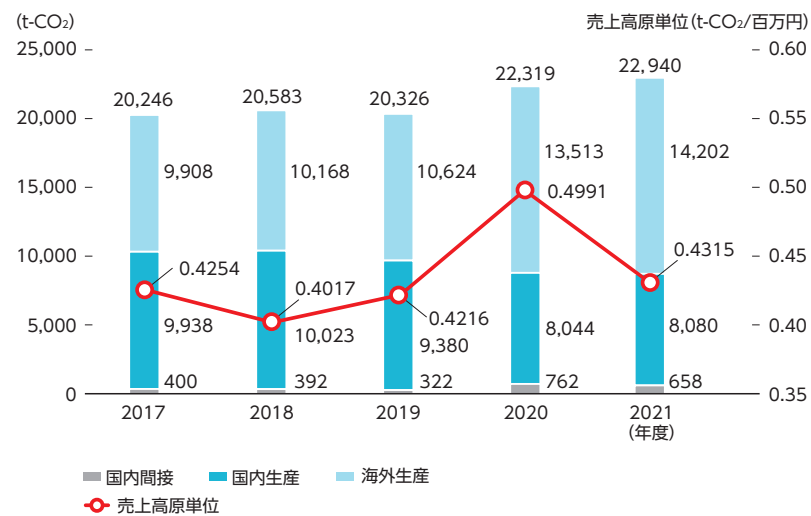
■ 温室効果ガス排出量 (スコープ3)

2014年度よりサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量の算定を始め、8年目となりました。スコープ3やその他環境に関するデータの詳細はホームページをご覧ください。

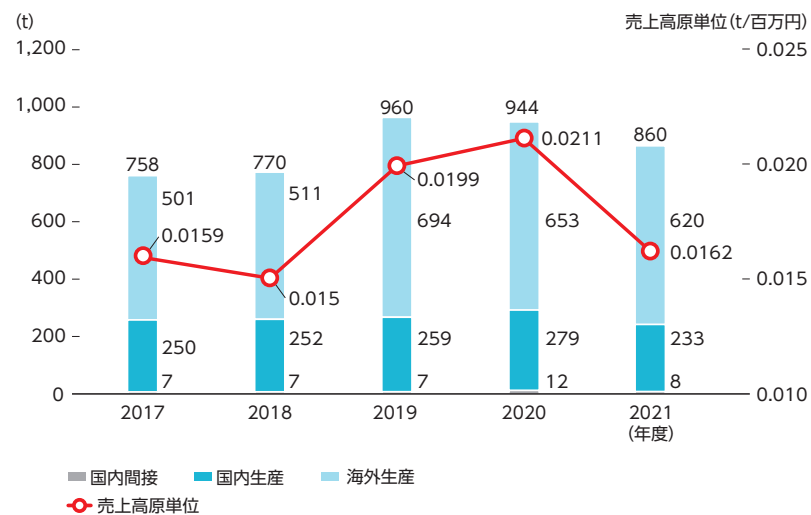
■ 廃棄物最終処分量

2021年度は2020年度に比べて絶対量で84tの排出量減。生産増の影響で、180tの増加となる見込みでしたが、合理化・原価低減活動による不良改善や歩留まり向上の効果で9t削減、その他生産増による効率向上や生産拠点の最適再配置の影響が収束したため、106t減少しました。この結果、売上高原単位で23%の削減となりました。

▼ 温室効果ガス排出量推移 (生産部門+間接部門)



▼ 廃棄物最終処分量推移 (生産部門+間接部門)



※温室効果ガス排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数を毎年再確認し、算定しています。スコープ1は、事業者自らによる温室効果ガス直接排出、スコープ2は他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、スコープ3は、スコープ1、2を除いて、原料調達から生産、販売、廃棄までにおける間接排出のことを指します。電力は各国の情報提供が充実してきたことから2020年度より拠点ごとの排出係数を調査し算定しています。

QRコード  
スコープ3 (2021年度データ掲載予定)  
<https://www.valqua.co.jp/social/environment/>

心と体の健康管理

[https://www.valqua.co.jp/social/safety\\_health/](https://www.valqua.co.jp/social/safety_health/)



10 >> 労働安全衛生

人材の育成と専門性の強化

■ ①危険予知のスキル向上とコンプライアンス遵守

外部講師による内部監査員候補に教育実施と自工場内での模擬監査を実施。コンプライアンスの理解と災害を予知できるスキルの向上を推進し、健全な工場経営を目指します。

■ ②学習と体験による安全意識の高揚

管理者クラスの安全意識向上を目的に、模擬機による災害体験を経験することにより、安全意識の向上を図っています。

安全衛生推進活動

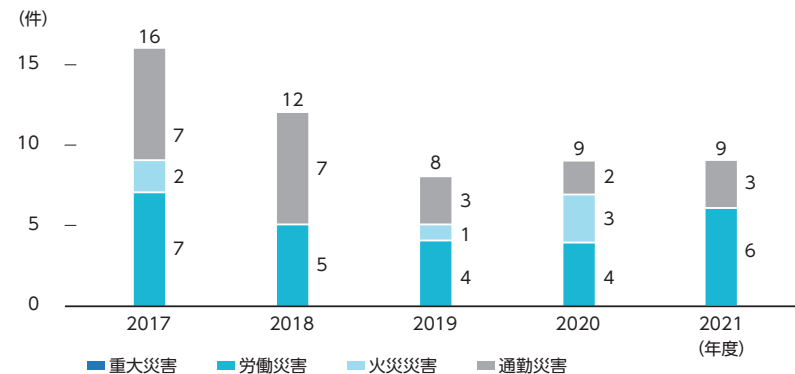
■ バルカーグループ安全衛生の日

バルカーグループでは、5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、安全意識の高揚を図っています。また、7月の全国安全週間期間中にSHE(安全・衛生・環境)Weekを設定し、海外を含めたグループ全ての拠点で安全衛生環境活動強化のためのイベントを開催しています。

■ 積極的な安全衛生推進活動

バルカーグループにおいてもビジネスのグローバル化が進む中、国・地域ごとに異なる法

▼ 災害発生件数



規制や習慣などに伴うリスクが顕在化してきました。こうした国・地域ごとに異なる法規制や習慣に合った活動をきめ細かく、かつ遅滞なく行うことで、グループ理念の根幹である「安全衛生は全てに優先」を実現できると確信しています。

衛生面では、健康経営の視点から従業員の心身の健康づくりにも注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場づくりや産業医による保健指導を積極的に推進しています。また、新型コロナウイルス蔓延防止策のガイドラインを発行し、各事業所での感染防止の取り組みを徹底しています。

▼ 安全衛生環境強化イベント



台湾バルカー国際、新事務所の安全祈願



バルカー・エフエフティ(長崎)、ロビーにモニターを設置し、熱中症などの注意喚起を実施



バルカーメタルテクノロジー(愛知)、安全体験型教育訓練を実施



# サプライチェーンマネジメント



## 11 >> サステナブル調達

### CSR 調達の推進

#### ■ CSR 調達ガイドライン

バルカーグループは、社会・環境・人権などにも配慮した調達活動に取り組むべく、2016年に「CSR調達ガイドライン」を制定しました。企業理念「THE VALQUA WAY」と「CSRコンセプト」に基づき、「調達基本方針」として5つの方針を掲げています。サプライチェーン全体でのリスクを最小化し、健全な調達活動を推進します。

#### ■ CSR 調達アンケートの実施

サプライチェーン全体でのCSR調達を推進する活動の一つとして、各サプライヤーにおけるCSR推進状況を確認するための自己評価アンケートを実施しています。

2020年度からは、新たな取り組みとしてコ

ンプライアンス遵守の評価を厳格化するため、アンケートの設問を今までの20問から、コーポレート・ガバナンス、サプライチェーン、環境などの設問を増やした30問に拡充し、さらに、調査対象をこれまで実施してきた主要なサプライヤー以外のサプライヤーまで範囲を広げたアンケート実施をしています。

今後、さらに活動を推進していくため、アンケートの内容を精査するとともに、サプライヤーに対する個別の支援などを通じてCSR調達の実現に向けた継続的な支援・協働への取り組みを行ってまいります。

#### ■ 紛争鉱物<sup>※</sup>への対応

バルカーグループは、紛争鉱物への対応を企業の責務と捉えて、CSR調達ガイドラインに対応方針を定め、調達品の調査をしています。今後もサプライヤーと連携して、人権侵害に負担しない取り組みを強化していきます。

調達基本方針、  
バルカーグループ  
CSR調達ガイドライン  
<https://www.valqua.co.jp/social/csrprocurement/>



※紛争鉱物：紛争地域で人権侵害、不正などを行う武装グループの資金源となる鉱物

#### ▼ CSR 調達アンケートの確認項目 (2020年度から10問追加し、30問に拡充)

項目	取り組み内容
CSR	●法令遵守・違法行為の予防 ●CSR推進 ●取引先への展開
コーポレート・ガバナンス	●内部統制 ●内部通報 ●適切な輸出入
公正取引	●腐敗(政治献金・寄付、贈収賄等)防止 ●優越的地位の濫用防止 ●不適切な利益の供与や受領の防止
情報・セキュリティ	●知的財産の管理 ●個人情報や、顧客の機密情報の管理 ●コンピューターネットワークへの攻撃に対する防御
サプライチェーン	●法規制、社会的規範、業界規範および規格の遵守 ●紛争鉱物(紛争地域産のタンタル、すず、タングステン、金とその派生物)の使用
人権	●人権の尊重 ●差別の禁止
労働	●採用時の差別の禁止 ●従業員への平等な機会の提供 ●禁止事項の遵守 ●労働時間、休暇、有給休暇の公正な適用
環境	●法令等で指定された化学物質の管理 ●排水・汚泥・排気の管理 ●資源の持続可能で効率的な利用 ●温室効果ガスの排出量削減 ●グリーン調達および廃棄物削減
安全衛生	●安全で健康に働ける環境 ●作業者の安全 ●災害への備え ●災害・事故発生時の体制
BCP	●事業継続計画への取り組み

# 人材・人権



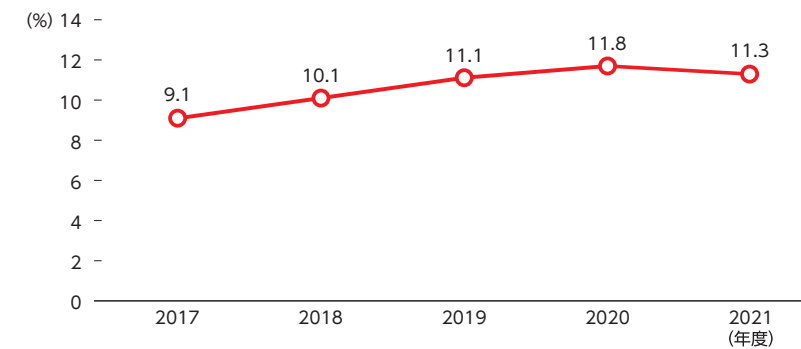
## 12 >> 人材の多様性確保

### 職場環境づくり・各種制度

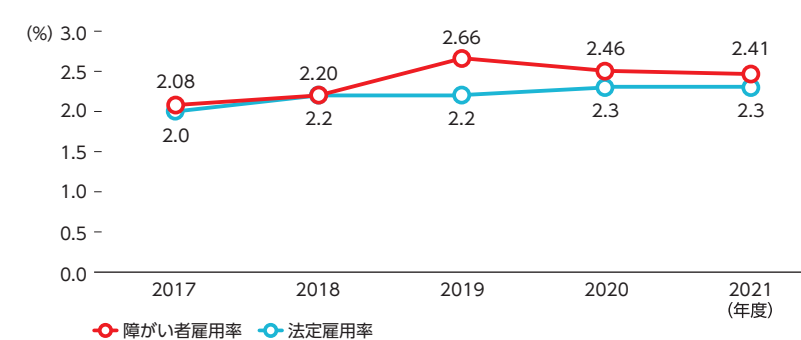
#### ■ 多様な国籍を持つ社員が活躍できる環境づくり

バルカーグループでは、外国籍社員の採用やグループ会社間での人材交流を積極的に行っています。社員がグローバルに活躍できる環境づくりを推進するため、海外赴任予定者への赴任前研修や赴任期間中のフォローを行い、日本で働く外国籍社員に対しては、日本語教育サポートの他、人事部内に外国籍社員を配置し、定期的な面談や悩み相談などのサポートを実施。言語や文化の垣根を越えて多様な人材が協働する中で、新たな刺激や気づきをえています。

#### ▼ 女性管理職比率 目標：2020年度までに10% 2027年度までに15%



#### ▼ 障がい者雇用率 目標：法定雇用率以上



柔軟な働き方を支援する制度
●副業(短日勤務制度)
●リモートワーク制度(リモートワーク手当含む)
●介護休業「連続取得期間は最長3年」
●1時間単位の有給休暇取得制度
●子どものパースデー休暇
●育児のための有給特別休暇
●育児短時間勤務「子どもが小学校3年生に達するまで」
●育児休業「2歳6カ月まで」
●フレックスタイム制度(コアタイム13:00~15:00)
●介護短時間勤務
●キャリアリターン制度

(2022年6月1日現在)

#### ■ エンゲージメント

創業100周年のありたい企業像「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を掲げていますが、これを実現するには、「受け身から攻めの体質」「失敗を恐れずチャレンジする体質」への転換が必要だと考えています。そこで「エンゲージメント」に着目し、全従業員とのエンゲージメントの向上を積極的に推進することにしました。バルカーグループ全社を対象に2020年8月に第1回従業員エンゲージメント調査を行い、2021年度も第2回調査を実施しました。各部門の実態に合わせてエンゲージメント向上の取り組みを進めています。

#### ■ 性別を問わず活躍できる環境づくり

性別に関係なく多様な視点を取り入れることで、さらなるイノベーションの推進を図ります。特に、女性のキャリア開発と成長を支援するため、女性管理職比率の目標を定め、海外グループ会社の経営層などで積極的な登用を行っています。

#### ■ 障がい者雇用の推進

地域との共生を目指しバルカーグループでは、地元の特別支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れています。障がい者の方に働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

## 13 >> 人権の尊重

### 人権の尊重

バルカーグループでは、2017年3月に、国連グローバル・コンパクトも踏まえながら「バルカーグループ人権基本方針」を策定しました。この方針のもと、GRIスタンダードを参考にアセスメントシートを作成し、年1回の頻度でグループ各社などに調査を行い、グループ全体の人権基本方針の周知と理解度の確認、および人権に関する取り組み状況を確認しています。

この結果を分析し、各グループ会社が自主的に人権問題の把握や防止・対処ができるようにサポートしながら、人権に対するさらなる意識向上とダイバーシティの推進を図ります。

バルカーグループではコンプライアンスハンドブックを展開し、グループ各社でも勉強会や外部トレーニングに参加するなど、人権意識を維持向上するための自主的な取り組みを行っています。



バルカーグループ  
コンプライアンスハンドブック

#### バルカーグループ人権基本方針

[https://www.valqua.co.jp/social/human\\_resources/](https://www.valqua.co.jp/social/human_resources/)



#### 品質方針、品質マネジメントシステム

[https://www.valqua.co.jp/social/safety\\_quality/](https://www.valqua.co.jp/social/safety_quality/)



#### 現代ガスケット概論

ガスケットとボルト締め、フランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した業界初の「ガスケット解説書」

<https://www.valqua.co.jp/technical/gasket-introduction/>



## 14 >> 人材育成

### 人材育成

バルカーグループでは「人材開発宣言」「人材開発方針」に基づき、多種多様な研修プログラムを提供しています。これらをバランスよく組み合わせ「求める人材像」に掲げる人材の開発・育成に取り組んでいます。

2020年度からは、CSR重要課題に新たに「人材育成」を加え、CEO塾、海外幹部研修、早期選抜研修などにより、近い将来、グループ役員クラスを担う人材、拠点経営を担うコア人材の開発を強化しています。

#### ■ 通信教育等の自己啓発支援プログラムの充実

バルカーグループでは従業員の自律的な成長を支援するため、自己啓発プログラムの充実に取り組んでいます。通信教育では、毎年、特集コースを設定し、受講料全額補助などを実施。また、オンライン公開セミナーやオンライン英会話に対する支援制度なども設けています。

#### ■ 目標管理と人事評価の仕組み

バルカーグループの従業員の目標は年度方針や部門ミッションをもとに設定しています。「THE VALQUA WAY」と階層別の「求める人材像」に則って日々の業務に取り組みながら、部署内で部下と上司が話し合って最終目標を設定します。成果は部下の自己評価を上司がコミュニケーションを取りながら評価し、課題と改善点を明確にして次に活かすなど、バルカーグループの持続的成長に向けた人材育成につなげています。

求める人材像
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業理念「THE VALQUA WAY」に共感できる人</li> <li>● グローバルな視点で判断や行動のできる人</li> <li>● 学習と成長への強いこだわりを持ち、自ら考えながら、新たなことに挑み続けることができる人</li> <li>● スピーディーな判断力や行動力を有し、時代の変化・変革を先取りして果敢にチャレンジできる人</li> </ul>

#### 人材開発宣言

<https://www.valqua.co.jp/recruit/training/#sengen>



#### 人材開発方針

<https://www.valqua.co.jp/recruit/training/#hoshin>



多種多様な研修プログラム
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル化に向けた人材育成</li> <li>2. 早期選抜による人材育成</li> <li>3. 階層別研修</li> <li>4. 職種別研修</li> <li>5. 自己啓発</li> </ol>

#### バルカー技術誌「バルカーテクノロジーニュース」

<https://www.valqua.co.jp/tech/technical/>



※「Seal Quick Searcher」は当社ホームページ、または下記二次元コードからご利用いただけます。

<https://www.seal.valqua.co.jp/seal/>



## 顧客満足



## 15 >> 品質の向上と顧客の安全・安心

### 品質保証体制と方針

バルカーグループでは、「グループ品質保証委員会」を組織し、グループ全体を統括するグローバル体制を構築しています。国内外の生産関係会社や販売関係会社を管轄する事業部・本部をはじめとして、調達部門や生産技術部門など品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

また、「品質方針」に基づいて、組織ならびに従業員一人ひとりが具体的目標を掲げ、品質向上活動に取り組んでいます。その上で、関連法規制を遵守、お客さまの求めに合致した品質を担保し、安全な製品とサービスを提供しています。

### 顧客の安全・安心のためのサービスの開発と普及を推進

バルカーグループでは、シール製品の製造販売にとどまらず、お客さまの要望に合わせてシールトレーニングを進化させ、プラント事故の要因でもあるシール締結に関する漏えいトラブルを減らすための技能者育成支援に取り組んでいます。

また、これまで培ってきた独自の技術とIoT等のスマート技術を融合させたシールエンジニアリングサービスを推進しています。

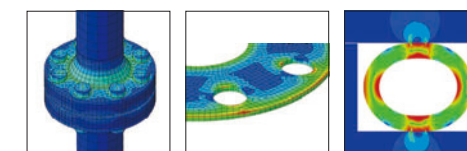
プラントの保安技術高度化ニーズに応える形で各種サービスの開発、展開を加速させて、全てのお客さまの安全・安心に貢献していきます。

### 評価技術

シール製品の使用環境は多様であり、全てのお客さまを対象に評価・検証を行うことは、現実的に困難でした。バルカーグループでは、こうした課題に対して、FEA（有限要素解析）を用いて使用環境をコンピューター上で再現・検証する次世代評価技術の開発に取り組んでいます。

この取り組みにより、これまで評価が困難であった大口径装置、高温や高圧条件での漏えいや破壊などの検証および寿命の予測が可能となりました。他にも、製品設計における形状や材料の多種多様な組み合わせの効率的な評価にもFEAを用いており、設計のスクリーニングとして効果的です。

今後もこの技術開発に積極的に取り組み、全てのお客さまの安全・安心に貢献していきます。



三次元解析

#### ■ シール製品検索ウェブサイト「Seal Quick Searcher」

製品選定に悩むお客さまの要望にお応えし、選定ミスによるトラブルを防止するため、多様な切り口での製品検索サイトを開設しています。流体・温度・圧力などの使用環境、キーワード、産業分野などから当社推奨製品を検索できるサービスや、取り扱いに必要な締め付け力の自動計算サービスなどによって、今すぐ最適な製品を選定したい、必要な情報だけを用いて技術資料を作成したいというお客さまの個別課題をリアルタイムに解決。今後も本サイトの充実を図り、幅広い視点でお客さまの期待に応えていきます。



## 16 >> スポーツ・文化・芸術の振興 地域社会との共生

### スポーツ振興支援

#### ■ 「ボールルームダンス」振興への新たな取り組み

バルカーグループでは長年にわたり、人々の健康や生活を豊かにする「スポーツ」の振興支援に取り組んでいます。2014年からは、年齢や障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめる生涯スポーツである「ボールルームダンス」の普及・振興を支援しています。

2021年度も新型コロナウイルス感染症の流行は続き、先の見通せない状況でしたが、多くの選手やファンのために大会の再開を目指す関係者を後押ししようと、視覚障がい者の全国大会「全日本ブラインドダンス選手権大会」やリモー

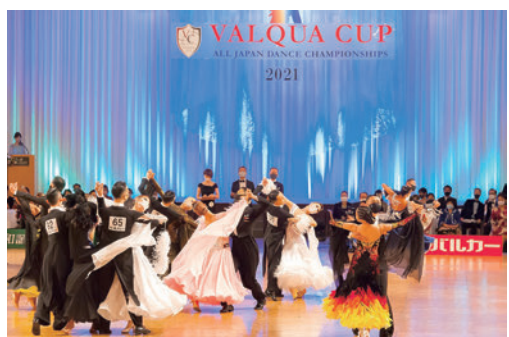
トで開催された「ジュニア・ダンスフェスティバル」など、さまざまな大会支援を行いました。

11月には当社グループが特別協賛する国内最高峰のプロダンス競技会「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」が、万全のコロナ感染対策をとって有観客にて開催され、選手たちの熱戦に沸きました。

2022年2月に開催された「アジアオープンダンス選手権大会」では、ダンスとミュージカルのコラボレーション「ダンスwithミュージカル」を実施。この新しい試みは観客のみならず、ライブ配信を視聴された多くの方から高い評価をいただき、主催団体と協力しながら進める「ボールルームダンス」の普及促進、新たな顧客開拓への大きな一歩となりました。



2年ぶりに有観客開催となった「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」の開会式



ボールルーム部門のトッププロたちによる熱き戦い



2022年2月に開催のアジアオープンダンス選手権大会では「ボールルームダンス」の普及促進のための新たな試みとして、「ダンスwithミュージカル（ダンスとミュージカルのコラボレーション）」が実施された



新型コロナウイルス感染症対策をとって開催された「アジアオープン ブラインドダンス選手権」には、視覚障がい者と健常者ペアが多数出場

社会貢献団体の活動支援、各種寄付活動について  
[https://www.valqua.co.jp/social/action\\_program/](https://www.valqua.co.jp/social/action_program/)



### 地域社会に対する感謝の日

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」の行動指針の「地域社会との共生」に基づき、世界中の人々とより豊かな未来を築いていくために、私たちに何ができるのかを常に考え、毎年「地域社会に対する感謝の日」を設け、地域社会に根差したボランティア活動を実施しています。

世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場の44カ所の従業員とその家族が参加しています。

2021年度は、コロナ禍の折ではありましたが活動を継続するために各拠点で工夫を凝らしながら、募金・寄付（寄贈）活動を主体に、清掃活動や花壇の花植え活動などを行いました。

#### ■ 大崎事業所（本社）

大崎事業所では、大崎のまちを花でいっぱいにと願って、毎年6月と12月の2回行われている地域の美化活動「お花いっぱい大崎」に継続して参加しています。

2021年度もコロナ禍が続いており、参加者が限定される面もありましたが、感染防止に努めながら、従業員とその家族が参加。地元中学校の生徒や他企業の参加者とともに、JR大崎駅へ続く道路沿いの花壇に、季節の花を植えました。



6月は季節の花、ペゴニアを植えました



12月の活動には従業員の家族も参加してスノーボールを植えました

#### ■ タイバルカー

タイバルカーでは、2021年10月に、バンブー工場の植樹活動と、医療機関（サムットプラカーン病院、ラヨーン病院）への支援活動を行いました。

医療機関への支援活動では、新型コロナウイルス感染症治療等で地域住民の安全を守って

くださっている医療従事者への感謝の意を込めて、支援金、医療用ゴム手袋、アルコール消毒液、飲料水を贈呈しました。



「清純な心」「清々しい日々」が花言葉の多年草・スパティフィラムを植えました



サムットプラカーン病院への支援品贈呈

#### ■ バルカーベトナム

バルカーベトナムでは、コロナ禍以前に行っていた「院愛するお粥」と名づけられた活動および清掃活動を中止し、2021年10月、社会福祉チャーリンセンター（養護施設）を訪ね、電気給湯器、冷温水器、ミルク、インスタントラーメン、お菓子などの食品のほか、ハンガーやマスクなどの消耗品を寄贈しました。



村上社長からチャーリンセンター長への支援品贈呈



贈呈式後の記念撮影

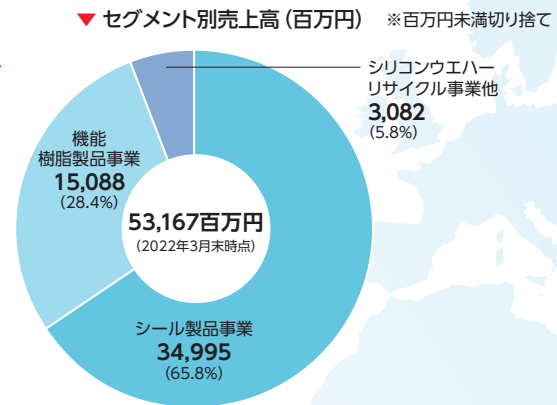


# 真のグローバル企業を目指して 会社概要・拠点図

「Value & Quality」、当社の社名はこの2つの言葉を併せたものです。この言葉のままに、シール製品事業、機能樹脂製品事業、シリコンウエハーリサイクル事業などによって、さまざまな産業・分野の社会的課題の解決と持続可能な社会の実現のために、「価値と品質」を世界中の皆さまにお届けしています。

## グローバルネットワーク

### バルカークループの事業



#### シール製品事業

売上高  
**34,995百万円**  
売上高構成比  
**65.8%**

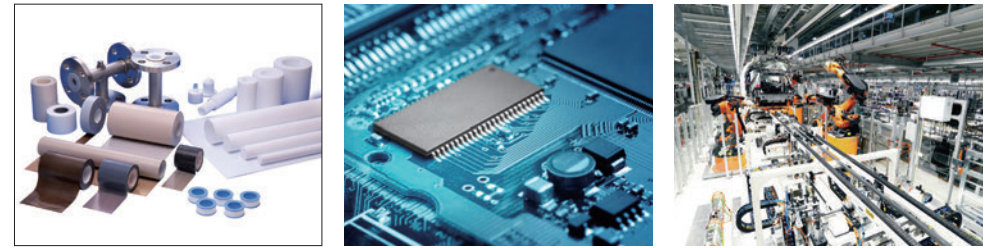
バルカークループの主力事業として、さまざまな産業向けに配管・機器用のシール材を提供しています。先端産業市場や機器市場、プラント市場に向けて新たな顧客価値を提供していきます。



#### 機能樹脂製品事業

売上高  
**15,088百万円**  
売上高構成比  
**28.4%**

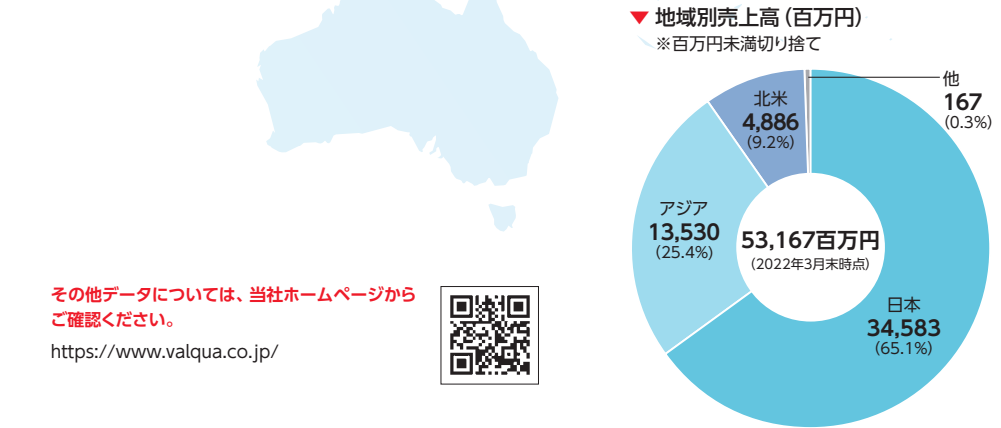
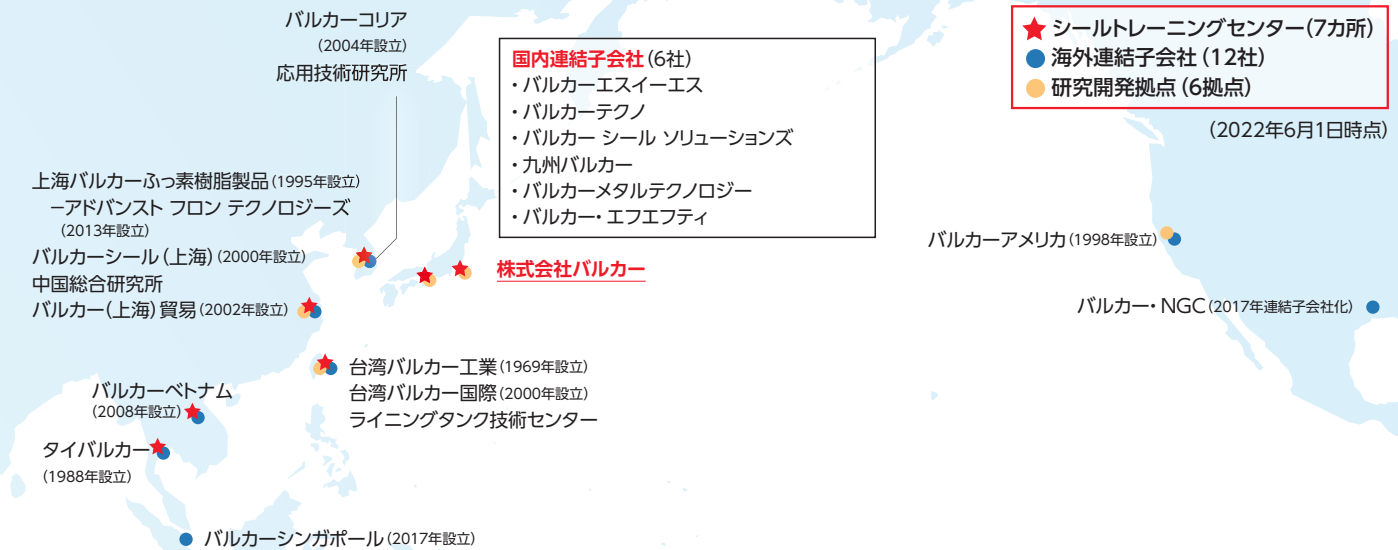
機能樹脂の優れた特性を活かして半導体装置・産業機械をはじめ多様な分野で使用されています。先端産業市場・プラント市場に向けた戦略製品を軸に、グローバルに価値を提供していきます。



#### シリコンウエハーリサイクル事業他

売上高  
**3,082百万円**  
売上高構成比  
**5.8%**

シリコンウエハーリサイクル事業などにより地球環境に貢献しています。今後は、H&S事業のさらなる進展により、新たな価値創造を具現化し幅広い産業に貢献します。



#### 会社概要

### 株式会社バルカー

本社：〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

創業：1927年1月21日  
設立：1932年4月8日  
資本金：13,957百万円

上場証券取引所：東京証券取引所プライム市場  
従業員数：410名(グループでは1,772名、2022年3月31日現在)  
事業内容：産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴムなど各種素材製品を設計、製造、加工および販売



# VALQUA Group

お問い合わせ先：株式会社バルカー

総務人事部 TEL 03-5434-7370 FAX 03-5436-0560

〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

<https://www.valqua.co.jp>



## Value & Quality

### 表紙について

バルカーグループは、安全・安心・豊かさを顧客に提供するための事業やボールルームダンス支援などのサステナビリティ活動を通じて、全ての子どもたちが活躍できる安全で安心な「明るい未来づくり」に貢献したいという思いから、子どもたちの写真を表紙に使用しています。バルカーグループの従業員から公募した、従業員の子どもの笑顔で表紙を飾りました。

